

海外研修（ベトナム） 報告書

医療科学部 放射線技術学科 3 回生 上青木 悠平

ベトナムでの 10 日間の海外研修について報告する。

【ベトナムの街の様子】

今回の海外研修は、ホーチミンとダナンの2つの都市を訪れた。ベトナムは日本ほど湿度が高くないため快適に過ごせた。しかし、急なスコールのため傘を常に持ち歩いていた。

ホーチミンはベトナム経済の中心である。一番初めに目につくのはバイクの多さである。ベトナムに住んでいる人のほとんどがバイクを所有しており、通勤や買い物の際の移動手段として利用している。中には、一台のバイクに5人で乗っている人もいた。ホーチミンには、信号機や横断歩道がほとんど無く道路を横断するのも大変だった。

一方のダナンは、ベトナムの有名なリゾート地である。ダナンの周辺には、バナ・ヒルやホイ・アン、ミーケービーチなどの観光地がたくさん在り日本からの観光客も多かった。町が海に近いため、海鮮料理がとてもおいしかった。海やホテルの屋上にあるプールはとても綺麗だった。



【病院実習】

ホーチミン市のチョーライ病院にて4日間の実習を行った。チョーライ病院はベトナムの三大病院の一つであり、規模は2000床と大きい。4日間で一般撮影、X線CT、MRI、放射線治療、核医学検査の5部門を見学および実習した。一般撮影、放射線治療、核医学検査を見学した。一般撮影の部門では、日本の実習では出来ない撮影をさせてもらえた。とても良い経験になった。また、技師の人でも静脈穿刺をしていたのが驚きだった。放射線治療部門では、引率の霜村先生も見ることがない装置があった。その装置は照射中に患者の呼吸を止めることができるものであった。それぞれの国にあった装置があることを知ることができた。核医学検査では、サイクロトロンを見せてもらった。サイクロトロンのシールドの分厚さは印象に残っている。チョーライ病院と日本の病院には大きな違いがあった。それは、患者の数であ



る。チョーライ病院では、1日で2500～3000枚もの写真を撮影しなければならない。そのため一度の撮影にかかる時間がとても短い。そうすることで患者の回転率を上げることができている。ベトナムでは、限られた時間でどれだけ多くの患者の検査ができるかが大切であった。ほかにも操作室内に検査待ちの患者を待たせたりしていたことにも驚いた。

【学会】

学会では、最先端の医療技術に関する発表を聞いた。学会には、日本の技師さんやフィリピン、ミャンマーなどの東南アジアの国々の人や韓国の人なども参加していた。学会での発表は、すべて英語であった。実際のところ1割ほどしか理解できなかった。発表だけなら練習をすればできるかもしれないが、質疑応答はリスニング力とスピーキング力がなければならない。改めて英語の重要さが分かった。そう考えると、学会で発表をしていた日本の技師の方々は、とてもすごい人たちであると思った。機器展示には、最新の医療機器がたくさん展示され、特に超音波機器の展示が多かったのが印象に残っている。学生のうちに海外の学会に参加できたことは、自分にとってとても良い刺激になった。将来的に海外の学会に参加できる機会があれば積極的に参加していきたいと思う。



【国際交流】

研修中はベトナムの方々とたくさん交流する機会があった。チョーライ病院の技師の方々としたフットサルでは、技師の方々は僕らよりも年上にも関わらず、僕たちよりも元気に動き回っておられた。パーティーはベトナムで3回した。1回目は、チョーライ病院の技師の方々が招いて下さったWelcome Party, 2回目は、チョーライ病院の技師の方々に実習中お世話になったので、お礼として招待したFarewell Party, 3回目は、学会の後に行われたGala Dinnerであった。

ベトナムの方は気さくな人が多く、英語が苦手な私たちにゆっくりと話してくれたり、簡単に分かりやすい単語を使ってくれた。パーティーでは、言葉よりもボディランゲージが中心になっていた。何かを伝えようとするのが最も大切だと思った。Gala Dinnerでは、ステージに上がりみんなでベトナムの歌を歌った。会場が盛り上がっているのが分かった。いい体験ができた。



【ベトナム観光】

- ・メコン川クルーズ…メコン川は、ベトナムに流れており、多くの人の生活にとって大切でる。ツアーでは、メコン川を船でゆっくりと進みながら現地の村に行き、そこでお昼ごはんを食べた。船上はとても涼しく暑さを忘れられた。お昼ごはんは、魚の揚げ物や肉、野菜を生春巻きにして食べた。大きな魚がそのまま揚げられていたのが衝撃だった。しかし、とても美味しかった。その後、村のココナッツのキャンディーやポップコーンを作っているところにも行った。



- ・ホイ・アン…ホイアンは、ベトナム中央部に位置する海辺の都市で運河が巡るエンシェントタウンは、名所として大切に保全されている。中国風の木造のショップハウスや寺院、色彩豊かなフレンチコロニアル様式の建物、凝った造りのベトナムのチューブハウス、仏塔がある屋根付きの日本橋（来遠橋）まで、さまざまな時代と様式が混在していた。ホイアンではランタンが有名であり、夜になると色とりどりにライトアップされ幻想的な景色だった。

- ・バナ・ヒルズ…バナ・ヒルズにはギネス記録に認定された世界最長のロープウェイがある。ロープウェイを降りると、神の手と呼ばれる巨大な手に支えられた黄金の橋（ゴールデン・ブリッジ）や、巨大人体パーツアートが所狭しとあり、他にもヨーロッパの建築物や中国の寺、大仏なども展示されていた。頂上にはユニバーサルスタジオジャパンのような遊園地もあった。バナ・ヒルズは、避暑地として有名であり、頂上はとても涼しくて快適に観光できた。



【謝辞】

本研修において、終始暖かく見守ってくださった霜村先生、小山さん、松尾先生、水田先生に深く感謝いたします。また、お忙しい中、自分の拙い英語にも懇切丁寧にご指導くださったチョーライ病院の方々にも心より御礼申し上げます。本研修を通して、診療放射線技師という存在について新たな見解を得ることができ、自分の将来像を描くにあたって非常に有意義な時間となりました。この貴重な経験を活かせるよう今後とも精進していきます。本当にありがとうございました。

海外研修（ベトナム） 報告書

医療科学部 放射線技術学科 3 回生 内田 有紀



8月15日から25日までの10日間、ベトナム海外研修に参加した。研修内容は主にホーチミン市内にある、Cho Ray 病院での病院実習、ダナンにて開催された学会 The 21th Annual Congress of Vietnamese Society of Radiology and Nuclear Medicine への参加である。

Cho Ray 病院での病院実習

Cho Ray 病院は、ベトナム最大規模の病院。1900 年に L' hospital Municipal de Cho Lon として設立され、1975 年に Cho Ray 病院と改名し今に至る。廊下には人が溢れ、座る場所も十分でないため床に座り込む人もいほど患者数が多い。実習中に驚いたことは以下の2点である。まず、造影剤のルート確保や薬剤の静脈注射も放射線技師が行う点である。検査全般のことを放射線技師自身で行うことが出来るため、患者数の多い Cho Ray 病院では検査の効率化に繋がると感じた。また、日本では資格の範囲外として許されない医療行為も当たり前のごとくこなす、ベトナムの放射線技師の方々に憧れを持った。次に被ばくに対する意識の違いである。CT 室の壁は分厚い木を薄い鉄板で覆った様なものだった。患者家族も体位補助のために検査室に入ると言うよりは付き添いとして検査室に立ち入る様子が見られた。加えて、線量計の交換回数は6ヶ月に1度と日本に比べると被ばく管理に対して少し大雑把な印象を受けた。しかし、全く気にしていない風でもなかったので今後、放射線防護に関してより厳密にルールが定められ先進国の様な安全な医療の提供が実現するのだろうと感じた。

また、今回の Cho Ray 病院での病院実習において、日本とベトナムの医療に関する相違点の見方について自分の中で変化があった。2年前に台湾での海外研修に参加した際には、他国の医療現場を見学し自国との違いに関心を持つのみだった。しかし、今回はそれに留まらず、違いから考えられることを自身で考察することが出来た。具体例



として放射線治療の部門において、ベトナムではABC(Active Breathing Control)システムが導入されている点が日本の放射線治療とは異なる点であった。ABCシステムとは患者の呼吸を強制的にコントロールすることで、放射線治療を行う際に呼吸による臓器の移動を無くし、マージンの範囲を狭めることで照射範囲を狭めることができるシステムである。日本にも呼吸による臓器の移動を防ぐために呼吸をコントロールするシステムは存在するが、ABCシステムは導入されていない。学会でもABCシステムに関する発表があり、Cho Ray 病院でも詳しく説明していただいたため、とてもよく理解することができた。ABCシステムは呼吸による臓器の移動を防ぐことができるため、より正確な治療が出来る優れたシステムかと思っただが、自分自身で一定な呼吸を行うことが不可能な患者にはどう対処するのか、患者一人あたりに割く時間が長くなってしまふ点など問題点もあった。日本においても導入すればどうかと安易に考えたが、国それぞれの医療状況や患者数など安易に導入できない理由も多くあることが分かった。このように相違点から考えられる背景や、2年間で蓄えた知識を用いて日本の医療と比較して考えることで、発見にとどまらず考察することが出来た。見学した上で、相違点から得た知識を材料として考えることが国外の医療現場を見学することの意義かと考えるようになった。

加えて Cho Ray 病院での実習を通して、ベトナム人の国民性を感じることも出来た。Cho Ray 病院の様子は渡航前から話を聞いていたため、廊下にまで多くの患者が溢れているという状況に驚きはしなかった。だが、検査室での患者の入れ替わりが早く、前の人が衣服を整え終わる前から次の患者が入替わりに入室する様子には少し驚いた。日本ではプライバシーの観点からあり得ない状況だと思う。しかし、そういった細かなプライバシーを気にせず、整然と秩序ある振る舞いにこだわらない様子は、それらを気にしないベトナム人の大らかさ故なのだと感じた。日本では、必ず何かしらの意見が出そうな、それがまかり通っているのは気にする人がいないからだと感じた。



また、ベトナムは月収3万円ほどあれば十分に生活できる世界である。金銭感覚の違いは病院のモダリティの古さからも感じる事ができた。島津のポータブルは39年前のもの、救急部のCTはレーザーポインタが一か所壊れ、撮影範囲を感で合わせるために撮影範囲に見たい部位が入りきらないことがあった。もはや業務に支障が出るモダリティをどうして使い続けるのかと聞いたら、医療機器は高価だからと教えていただいた。ベトナムで最も規模の大きい Cho Ray 病院でさえそのような状況なのだと思う

と同時に、核医学や放射線治療など新しいモダリティの導入や施設の建設も進んでいたため、まさにこれから発展する国、医療現場なのだと感じた。

Da Nang での学会参加

ダナンにて開催された学会 The 21th Annual Congress of Vietnamese Society of Radiology and Nuclear Medicine に参加した。これは、「放射線の安全性と人工知能の時代」をテーマに、ベトナム放射線核医学協会が主催する毎年恒例の学会である。学会参加は国内外併せて初めての経験であった。未知の経験は自分の世界を広げ、今後の選択肢として多くの可能性を与えてくれる。今回の学会も、初めて学会に参加することで学会とい



う場を経験し、刺激と将来目指す放射線技師の像として一つの選択肢を得た。学会で発表される先生方の姿を見て、国内の学会で発表されるだけでも素晴らしいことだと思うが国外の学会でも堂々と他国の技師にも動じず発表される様子に畏敬の念を覚えた。質疑応答の時間にまるでディベートの用な勢いのある質疑応答があった。ご自身の研究にこだわりを持って追及されているからこそ、返答は自信に溢れ、研究者としての先生方の一面が見ることができた。放射線技師として第一線で活躍されている方がどのような研究をされているのか、また他国の方の発表も自国ではあまり見ない医療について知ることができ、とても興味深かった。

全体を通して

研修中、体調を崩しホテルで2日間過ごした日があった。実習期間中であったため、他の人より実習期間が短くなってしまった点とあまり病院スタッフの方々と交流出来なかった点が心残りである。聞きたいことも多くあったが聞けずじまいとなってしまった。

一方で、国際交流のお手本のような姿を先生方から勉強することができた。国を超えて、お互いを大切に尊敬し合う気持ちと、変わらず長く続く交流があのような関係を作るのだろう。私も、今回のベトナムでのご縁を大切にしたいと思い、Cho Ray 病院の方々と今後お会いする機会はあるのだろうかと思案していると、先生から、自分で動かない限りないが、自分で動いたなら機会は必ずあると助言をもらった。機会を待つだけでは絶対会えないし、自ら動かないと成り行きでは自分の理想通りにはならない。同じ年代の方々ではないので再び観光等で渡航した際に再会とはいかないかもしれないが、放射線技師としていつかまた再会できるように、フットワークを軽く、学ぶということに対してハングリー精神を持って、成長したいと思った。



今回の研修を通して全体的にやり残したことが多く後悔が残った。しかし、限られた時間の中でも経験したこと、実際に渡航して感じたことは今後、勉強や就職、放射線技師として道を選択する際に何かしらヒントとして生きるだろう。苦くて甘いベトナムコーヒーも、バイクで溢れた道も、信号が青でもコツをつかまないと渡れない道路も全てが新鮮で刺激的な毎日だった。日本は清潔、平和で穏やかだが、静かで人とのつながりが乏しいように感じられる。ベトナムの賑やかで常に人の温もりが側にあり、パッションが感じられるようなエネルギーに溢れた空気は日本には無く、この感覚も海外に出るからこそ感じられることだと思った。やり残したことも沢山あるのでもう一度行きたいと思うが、大学の研修で行けることはもう無い。今度は放射線技師として自分の力で渡航したいと思う。

海外研修（ベトナム） 報告書

医療科学部 放射線技術学科 3 回生 岡本 莉奈

病院実習



病院実習はチョーライ病院で4日間研修を受けた。

この病院実習では、日本の病院実習だけでは見られなかった、病院システムや放射線技師の仕事内容の違いなど、新しい発見のあるとても充実した研修を受けることができた。病院実習では、MRI、CT、X線単純撮影、治療、核医学を見学させていただいた。その病院実習で、日本との違いがたくさんあった。その中で印象に残ったことが3つある。

1つ目は、撮影した画像が印刷されたフィルムを患者さんに渡していたことである。日本では撮影した画像データは電子媒体で扱うため、患者さんは自分のデータを通常は持たない。しかし、チョーライ病院では HIS、RIS の整備が整っておらず画像データをフィルムにして患者さんに渡していた。そして、患者さんは自分のデータを持ち、医者のところに行って見てもらうそうだ。

患者さんがフィルムを忘れた場合は、データの入ったカセットのようなものから探す必要があり、膨大な数のカセットの中から、患者を探すのは大変だろうと感じた。

2つ目は、ベトナムの放射線技師は造影剤注入や鎮静剤注入をするための穿刺行為が認められていることで、日本では造影剤注入後の抜針のみが認められている。このことにより、日本のように毎回、放射線科医を呼んで穿刺を行うよりも遙かに検査効率が高く、患者数の多いベトナムでは良いことだと考える。3つ目は、甲状腺の薬の集積部位を見る SPECT である。初めて見た装置で、最初は何に使用する装置かも分からなかった。さらに、製造されたのが40年も前の装置ということで驚いた。装置の仕組みはシンプルで、ヨード製剤の反応がある箇所を装置が通過するとそれと連動し、カーボン用紙に針が打ち込まれ、印をつけていくというものだった。できあがったものを見せていただくと、一目でどこに薬が集積しているのか知ることができた。昔の装置でも現在日本で使っているような SPECT と、病気の場所を写すということは一緒だということが分かった。



他にも、日本の病院と異なることがあり、驚いたことはまだあるが、今回の病院実習を通して日本の病院では学ぶことのできないことを学べ、本当に良い経験ができた。

観光



私たちはメコン川、ホーチミン市内、ダナン、バナヒルを観光した。最初のツアーでは、東南アジアで最長で、アジア全体でも7番目の長さのメコン川を船に乗って観光した。日本では見ることでできない壮大な景色と、船の上での暮らしを見ることができた。

ホーチミンとダナンでは友人とたくさんのお店を回った。お土産を購入し、カフェを巡り、たくさん新しい発見があった。

ホイヤンの街では、ベトナムで有名な観光地というだけあり、たくさんの観光



客が訪れており、賑やかで活気に溢れていた。日が落ちると、ホイヤン街で有名なランタンが灯され、幻想的で美しかった。

バナヒルでは、ロープウェイで山頂まで登るので、涼しく過ごしやすい気温だった。手の形のモチーフに架かっている橋を渡り、美味しいご飯も食べ、良い時間を過ごすことができた。

学会

学会参加で改めて感じたのは、英語の力をもっと身につけたいということだ。学会で私たちが聞いた発表は、ほとんどが英語での発表だった。内容は治療についての内容で、スライドに出てくるグラフの中に授業で学んだものがあり、所々、単語の意味から理解できたところがあった。しかし、発表の内容のすべてが分かったわけではなく、自分自身すごく興味のある部門だったので、ベトナムでの学会参加という貴重な体験ができたにもかかわらず、少し後悔が残った。英語の単語力とリスニング力をもっと身につけたいと感じた。発表されていた方の英語は、すごく聞き取りやすく、わかりやすかったので、私もこんな風に話したいと思った。



学会会場の外では、SIEMENS や GE、Canon、FUJIFILM などたくさんの企業が来られて装置の展示をしていた。少ししか見るができなかったが、こんなにもたくさんの大手の企業が来るのだと感じ、改めてこの学会に参加することができて良かったと感じた。

国際交流

現地の方との交流はたくさんあり、そのたびに国際交流は良いと感じた。



ベトナムの方はフレンドリーな方が多く、初めての海外で緊張していた私でも、楽しく交流することができた。

チョーライ病院の方とは、最初の Welcome party で親睦を深めることができた。料理が運ばれてきて、それと同時に、ベトナムのビールで乾杯し、楽しい時間であった。現地の方のお酒の進むスピードに驚いたが、お酒が入ることによって病院実習のときよりも気さくに話すことができ、楽しく盛り上がることができた。

そして、病院実習が終わり最後に Farewell party を行った。

Farewell party は、自分たちが感謝の気持ちを込めておもてなしする立場だということと、緊張もほぐれていた

ので、Welcome party の時よりも、コミュニケーションを積極的にとることができた。そして、写真も一緒に撮っていただくこともできた。他の方にも、料理に合うソースや、ホーチミンのおすすめの観光場所も教えていただき嬉しかった。そして、お別れの時には名前を覚えて呼んでいただいたことが特に嬉しかった。

学会後の Gala dinner でも、チョーライ病院の方が何人か参加されていて再び交流できた。さらに、去年まで学生だったという京都医療科学大学の先輩の友人の方とも交流し、ステージで音楽に合わせて楽しく踊ることができた。このように、今回の海外研修で多くのベトナムの方と交流し、たくさん話をして学ぶことができた。日本だとこんなにも海外の方と交流する機会はないので、貴重な良い経験になった。そして、英語に自信がなくてもコミュニケーションを試みる力は、海外研修に行く前よりもついたと思うので、日本で海外の方に道を聞かれたりしても、コミュニケーションを取り、手助けをしようと思った。

まとめ

今回が初めての海外ということもあり、最初は不安で緊張したが、たくさんの方とコミュニケーションをとり、交流をしていくうちに少しずつ慣れてきて、不安も減っていった。普段、日本では絶対にできない経験することでき本当に良かった。

そして、英語の大切さや伝えようとする姿勢、表現力も大切ということが身をもって感じることもできた研修でもあった。そして、ベトナムの方は私たちに対して優しく接してくださったので、もし、日本に来られたときは、私たちが日本のおもてなしをしようと思った。

海外研修（ベトナム） 報告書

医療科学部 放射線技術学科 3回生 小国 文也

私は8月15日から8月25日までの11日間、海外研修でベトナムに訪れました。その11日間で私は様々なことを経験し学ぶことができました。

1日目はホーチミンで街を少し歩き、いろいろな店に行き食材などを買ったが、ベトナムのお金は桁数が大きく、計算にとっても時間がかかり苦勞した。ベトナムではドンと呼ばれる通貨が用いられており、およそ1円が200ドンであり、ゼロが多く買い物の時に計算をするのが大変だった。また、ベトナムには信号があまりなく、バイクがととても多く道路を渡るとき大変苦勞した。その後、ホテル近くの広場にて現地の方と一緒に羽根蹴りをした。羽根蹴りという遊びは日本では馴染みがなく、私も初めてだったので最初はなかなか上手できなかった。現地の方はとてもうまく、技も決めていてすごかった。現地の方との羽根蹴りはとても楽しかった。



Figure 1 : 病院研修

2日目の病院研修初日は一般撮影を見学した。ベトナムと日本の違いは研修生でも撮影ができることである。患者の接遇から、ポジショニング、撮影、画像処理をさせていただき、貴重な経験ができた。技師の仕事の楽しさを知ることができた。また、日本と比べ患者数がととても多く、椅子が足りず地面に座り検査を待っている患者がいるなどの違いを知ることができた。

会話はすべて英語であるためととても苦勞したが、技師の方だけでなく医師やエンジニアの方と去年、訪越された先輩の話や病院の歴史について話し交流を深めることができた。

3日目は土曜日で病院研修はなく、メコン川を観光しベトナム料理を食べた。大自然の中で食べるベトナム料理はととてもおいしかった。川を下っている途中に激しいスコールに会いととても驚いたが、事前に雨具があると聞いていたため濡れなくて済んだ。メコン川はととても広く魅力的であった。夜はホーチミン市内に行き広場で現地の方や観光に来ている人と写真を撮ったり、お話をした。英語で会話が成立した時はととても嬉しかった。

4日目は日曜日で1日フリータイムであったため、市内に出て買い物や食事を楽しんだ。ベトナムでは日本にもものたくさんあり、ほとんどが日本より安く売られていた。夜はベンタン市場で食事をした。イタリアンや韓国料理、ベトナム料理などたくさんの店が並んでおり、どこもととても美味しそうであった。晩御飯を食べ終わり、マッサージ店で受けたマッサージはととても気持ちがよく疲れが取れた。

5日目の病院研修で私はCTを見学した。技師の方から画像から病気の詳細や画像処理を教わりとても勉強になった。研修中にCT装置の点検に立ち会うことができ、ガントリ内部も見れてとても嬉しかった。実際は、教科書で見えるものよりとても複雑であった。病院研修を終え、チョーライ病院の方と一緒にフットサルをして交流を深めた。ベトナムの方は全員フットサルが上手く、点を取ることに困難であった。フットサルを初めてやったがとても楽しくいい思い出にもなった。フットサルの後はウェルカムパーティーを開いていただき、一緒にお酒を飲み、会話をとても楽しい時間を過ごした。ベトナムの方はとても親切で、料理をお皿に盛ってくれ、さらに食べ方も教えてくれた。頂いた料理は今まで味わったことのない美味しさであった。一緒にお酒を飲み、ベトナムの方はお酒に強い人がたくさんいることが分かった。このパーティーでたくさんのベトナムの技師さんと仲良くなれた。



Figure 2 : フットサル

6日目はMRIを見学し、造影時の注射を刺すことは日本の技師はできないが、ベトナムの技師ができることを知った。また、ベトナムでは車いすやベッドから患者が移動するときの介助は全て家族がやっていた点も異なっていた。患者数がとても多いため、技師の方がやらずに患者の関係者が補助することを知った。チョーライ病院のMRIではポジショニングをする人、画像処理をする人など役割分担をし、数人で検査を行っていた。国が違えばやり方も変わることも知ることができた。

7日目は病院研修最終日で核医学と放射線治療について見学した。放射線治療では日本とほぼ同じであったが、シエルの作り方は少し違い、日本で見たものはお湯につけて柔らかくしていたのに対しベトナムでは温風にてシエルを温めて柔らかくしていた。温風で柔らかくするのは、とても時間がかかることを知った。核医学でベトナムのPET検査で使われるのは ^{18}F のみであることを聞き、日本と違ったため少し驚いた。また、あまり見ることでできないサイクロトロンを初めて見ることで、学んだことを確認でき良い経験になった。化学薬品の保管の仕方も知ることができた。実際に見るまでは、あまり分かっていなかったため、新たな知識にもなった。午前中に見学を終え昼からはスライド発表と、研修終了証書の授与式があった。スライド発表は技師の方の前で英語で発表した。英語がわからない技師の方にはスライド発表の後、英語もベトナム語もわかる技師さんが通訳をしてくれた。その後の研修終了証書の授与式にて病院研修の振り返りをした後、修了証書を頂き病院研修は終了した。4日間の病院研修であったが、色々なモダリティを回り、それぞれの場所でたくさんのことを学べた。夜はfarewellパーティーがあり技師の方とご飯を食べたりお酒を飲み楽しんだ。会うことが最後になる方もいたので寂しい気持ちにもなった。ホーチミンにいる期間は1週間であったがとても楽しくいい思い出がたくさんできた。



Figure 3 : farewell パーティー

8日目はホテルを出てホーチミンからダナンへ空路で移動。ホイアンは世界的にも有名な場所であり夜になるとランタンがとてもきれいであり素晴らしかった。1度は行ってみたいと思っていたので本当に良かった。ホイアンからホテルに戻り、ホテルのプールに入ると夜であったため少し冷たかったが久しぶりのプールはとても楽しくて気持ちがよく、またいい運動にもなった。



Figure 4 : ホイアンのランタン

9日目は学会に行き発表を聞いた。たくさんの日本の方が英語で学術発表をしておられた。まだ知らない内容もあり難しかったが、学会で発表する人はどのような考え方をしているのか知ることができ良い経験になった。また発表から質疑応答まですべて英語であったため英語の重要性を感じ、今後英語を勉強しようという励みにもなった。学会の後に入った海はスクールの後で少し波が高かったがクラゲもいなく楽しく海に入ることができた。夕方からは Gala dinner に参加し、料理やお酒を飲み、様々な国の方との交流をし、またステージ上でベトナムの歌などを歌って踊りとても楽しく一生の思い出になった。



Figure 5 : Gala dinner

10日目はバナヒルへ観光に行った。バナヒルは山の上にあるためロープウェイで上まで登った。ロープウェイの全長が5キロ以上ありとても長かった。とても高くまで登り気温が下がり、高度による気温の影響も感じることができた。観光客がとても多く歩くことが大変であったがゴールデンブリッジなどの観光名所に行くことができ楽しかった。また、テーマパークでフリータイムを楽しんだ。頂上からの景色はとてもきれいであった。ダナンには3日しかいなかったがきれいな街で、さらにたくさんの観光名所に行けとても楽しく、またいい思い出になった。

研修旅行に行く前は「英語を話せるか?」、「現地の人とも会話できるか?」などの心配事がたくさんあり、楽しめるか不安であったが実際に行ってみると英語も通じ、現地の人とも話せ楽しめた。さらに思い出もたくさんでき様々なことを学べ意味のある海外研修になった。

海外研修（ベトナム） 報告書

医療科学部 放射線技術学科 3 回生 柿田 啓人



Figure 1 病院実習

・病院実習

今回、ホーチミン市にあるチョーライ病院で実習を行った。チョーライ病院は、患者数が多く検査室の廊下にストレッチャーが設置され、そこに横たわる人が多くいた。患者数が多いため、検査を行っている最中に次の患者が入室して待機していたため検査の回転数がとても早かった。次に驚きだったのが、ベトナムの放射線技師が穿刺を行っていたことだ。日本では医師や看護師が穿刺を行い、放射線技師が行うことは絶対ないためだ。穿刺の時、日本の看護師は衛生面を考慮し

必ずマスクをするがベトナムではマスクをせずに行っていて、衛生面などあまり配慮していなかったため驚いた。日本と違いベトナムの放射線技師は仕事量が多く、多忙であった。だが病院が大きいため、CT 一台に 2、3 人、MRI 一台に 4、5 人の放射線技師が配置され、入れ替わりで機械を操作したり、椅子に座り睡眠をとっていたり、技師さん同士で談笑していたり YOUTUBE を見ていたりしていた。日本では、患者さんがいるところで居眠りなどしないが、ベトナムでは許される。さらに、後ろに座っている別の患者さんに検査終了後の診断画像が容易に見られる。ベトナムは、そのようなプライバシーの保護や細かいことは気にしないのであろうと思った。

このようにベトナムのチョーライ病院は、日本とは少し違った医療を行っていることを知ることができた。

・学会

初めて学会に参加した。思っていたよりも様々な国から来られた外国の人達が参加されていた。発表はすべて英語で、途中から話している内容がわからない場面もあったが授業で習った単語などは聞き取れたため、ところどころ、理解できた。発表した内容に質問をしている日本人の方がいて英語は国際交流をするために、すごく大切な言語だと改めて知った。私も学会で発表できるほどの英語力を身に付けようと思った。



Figure 2 学会発表

・ホーチミンの街

ホーチミンに着いてバスでホテルに向かう途中、交通量の違いに驚かされた。信号がなかったため道路には車、バイク、バス、などが行き交っていた。また、ベトナムの人はクラクションを自分の居場所を示す合図に使うため、交通量の多い昼間はとてもうるさく感じた。道路を横断するときはバイクや車の合間を見極めて通行しなければならないため、初めは苦勞したが、3日ほどで慣れてすぐ渡れるようになった。道にはたくさんの屋台、ハンモックで寝ている人がおり自由度が高く面白い国だと感じた。夜には広場に行き、羽を蹴るスポーツをしたり、タピオカを飲んだりして過ごした。また野犬に追いかけられたりもして、日本では体験できないことが多かった。市内は人も多く、街が光り輝きとても栄えていた。日本以外の国に訪れたことがなかったため、新鮮で楽しく過ごすことができた。



Figure 3 ホーチミン市内



Figure 4 ドラゴンブリッジ

・ダナンの街

ダナンに行くまでの空港でバーガーキングのハンバーガーを食べた。海外のハンバーガーは日本より安くて大きいと聞いていたのでその通りだった。日本のハンバーガーに慣れていたので得た気分になった。

ダナンはホーチミンと違い、人や交通量も少なくホーチミンほど気をつけて歩く必要はなく気楽だった。ホーチミンのホテルは部屋の中に蟻やゴキブリがいたが、ダナンのホテルは四つ星ホテルだったため、とてもきれいだった。トイレはウォシュレットが設置されており、ホーチミンで宿泊したホテルより綺麗で快適であった。それ

にダナンは、リゾート地のためホテルには日本人が多く安心できた。屋上にはプールがあり、そこからの景色は絶景でリゾート地ならではと感じた。近くに海があり、クラゲがないとの事だったため海に入った。海は暖かく波があり楽しかったが、日本より塩分濃度が高いのか顔がヒリヒリして真っ赤になった。日本の海との違いを感じ、それもまた良い思い出となった。ダナンで有名なドラゴンブリッジを見に行ったが午前中と夜見るのでは全く違った景色が広がっており、夜見るドラゴンブリッジはデートなどに最適な場所だと感じた。

・パーティー

チョーライ病院の放射線技師の方々が、ウェルカムパーティーとフェアウェルパーティを開いてくれた。そのパーティーの内容は、仲を深めようという会のような会だった。ベトナムの方は日本人と違ってお酒に強く、パーティーを非常に楽しんでいるように感じた。たくさんの料理が次々と出てきたが、どのように食べるといいのかわからなく困っていた。そこで隣に座っていたベトナムの方に、どのように食べると美味しく頂けるのかを親切に教えていただいた。その中には、ベトナムでしか食べることができない美味しい食べ物もあり、日本へ帰ると食べることができないと思い残念だった。

・ 観光地

メコン川、ホイヤン、バナヒルを観光した。

メコン川はとても汚く、ボートの後ろの席に座っていたが、落ちたら大変だろうと不安がよぎった。メコン川の両岸には家が立ち並んでおり、子供が水浴びをしていた。だが現地の人は日本人と比べ、身体が丈夫であるため、日本で生活している我々が入ると大変なことになりそうだと感じた。途中、陸に上がり果物を見たりココナッツミルクを飲んだり、それを加工したキャンディを食べ、とても甘くおいしかった。巣箱から蜂がたくさんついたはちみつを手で持ったり、大きな蛇を首に巻いたり普段テレビで見ている光景を実際に経験できて面白く大満足であった。

ホイヤン

ホイヤンはランタンが有名で、夜になるととても綺麗に輝いていた。川から見る景色は格別で観光客の方たちも写真を撮っていた。屋台ではカエルの丸焼きや、とてもおいしそうなお食べ物がたくさん売られていたが、現地の方でも時々お腹を壊すそうなので食べることは残念ながら諦めた。しかし、レストランで食べた窯で焼かれたピザは美味しくとても感動した。

バナヒル

ダナンの観光スポット、バナヒルに行くために世界最長と言われ、ギネスにも認定されているロープウェイを利用して向かった。それは標高が上がるにつれて気温も低くなり、心地よく、ずっと乗っていたいような気持ちになった。バナヒルに到着すると、そこは少しユニバーサルスタジオジャパンのような雰囲気があり驚いた。たくさんのアトラクションの中でフリーホールに乗ったが、とてもスリルがあり楽しかった。他にも乗りたかったが時間がなく断念した。バナヒルにもスターバックスコーヒーがあり、景色が良い場所で飲むコーヒーは、いつもよりもおいしく感じた。ほかにも大きな手が橋を支える名所から見える景色は空気が澄んでいて日本ではあまり眺めることのできない景色で感動した。

ベトナム研修を終えて、日本との違いを知ることができ、また様々な経験ができ有意義な10日間を過ごすことができた。



Figure 5 バナヒル

海外研修（ベトナム） 報告書

医療科学部 放射線技術学科 3回生 岸本 崇希

私は今回が初めての海外研修でした。この研修で私は「日本と異なるベトナムの文化や医療について学ぶこと」・「英語力を磨き、ベトナムの人とたくさんコミュニケーションをとる」という目標を立て、10日間研修に挑みました。

病院実習 (in Cho Ray Hospital)

チョーライ病院での研修期間は多くの事を学びました。

日本の病院とは異なり、チョーライ病院では1日の検査数が非常に多いため、効率よく撮影する必要があると感じました。また、現地の診療放射線技師の先生方たちは、1つの分野に特化しているため、その分野に対する技量が充実しておられ、自分自身も特化した技術を身につけたいと思い、チョーライ病院での研修はとても刺激になりました。



病院実習の様子 (X線撮影検査)

は撮影の準備や作業をされていました。ベトナムではPACSなどがなく、MRI・CTなどの検査画像をすべてフィルムに出力していることや1日の検査数も多く、日本よりも作業にかかる時間が多いため、効率よく検査を行うことが求められているのだと感じました。

最近、日本ではフィルムの文化は少なくなり、自分自身もあまり見たことがなかったため、いい経験になりました。

今回の研修で初めて核医学検査・放射線治療の部門の見学させていただき、日本にはない装置または珍しい装置を見ることができました。

右の写真は、患者さんの呼吸を強制的に調整する装置で、放射線治療で使われています。

診療放射線技師の業務についても日本とベトナムでは異なる点がありました。診療放射線技師が国家資格でないことと、技師が穿刺することが可能で、医師の立ち合いが必要がないことです。

また、撮影室まで患者さんの家族が付き添い、撮影の補助をする様子も見られました。本来、日本では技師が行う役割であるが、その分ベトナムの技師の方たち



呼吸管理装置

例えば、呼吸による腫瘍の移動が原因で、放射線を当てる範囲を広げる必要があります。しかし、肺などの正常な臓器における副作用を起こす可能性が高くなります。

そのため、この装置を使って患者さんの呼吸を管理し、呼吸性移動を抑えることで、放射線を照射する範囲を狭くすることができます。

この装置は日本にはないため、実際この目で見ることができ、よい経験になりました。また、日本では数少ないサイクロトロンも見学することができました。

日本にはない装置または珍しい装置を見ることができたことは、自分にとってもっといろいろな装置と出会い、携わっていきたいと思いました。

学会



学会の集合写真

学会に参加して、貴重な体験ができました。その学会では日本からも多くの診療放射線技師の先生方たちもプレゼンしておられ、海外の方たちとも交流される様子がとても印象に残っています。診療放射線技師の先生方が海外でも活躍されている姿はとてもかっこよく、誇らしく思いました。その姿を見て、自分の視野を広げることができました。自分も先生方のように海外の人と交流できるそんな診療放射線技師になりたいと思いました。しかし、内容は専門的なことや最先端の医療技術について様々な発表があり、私にとって難しく、理解をすること

があまり出来ませんでした。また、この学会で英語の必要性を感じました。この研修を機に、英語の必要性・自分自身の知識不足を実感できたので、今後の学生生活で磨いていきたいと思いました。また、この機会を通じて、日本の学会にも積極的に参加していきたいと思いました。

観光

観光ではメコン川・バナヒルなどいろいろなところを観光しました。非常に多くの観光客がいて、とても賑やかでした。日本では体験できないことばかりで、特に、バナヒルで乗ったロープウェイはスリル満点でした。

また、日本にあるユニバーサルスタジオジャパンと似た遊園地があり、日本とは違うアトラクションばかりで楽しむことができました。



バナヒルの観光の様子

ベトナムの料理は美味しいものばかりでした。個人的には Welcome party・Farewell party で食べた貝やエビの料理が特に美味しかったです。先生方のおススメの料理もとても美味しく、印象に残っています。

ただ、日本料理店を見かけて、日本食が恋しくメンバー全員で行ったのもいい思い出です。

現地の人との交流

今年はチョーライ病院のスタッフの方々と Welcome Party・Farewell Party やフットボールの試合をしたりしてたくさん交流することができました。英語の知識がない中で、発音など上手にできず最初は伝わらないことが多々あり、自分自身も言いたいことを伝えることに必死でした。しかし、ベトナムの方々は私たちが理解しやすい表現を選び、私たちの英語を理解しようとしてくれました。英語を学ぶ以上に、コミュニケーションにおいて相手を理解する気持ちの大切さを教えられました。

また、この機会を通じて、海外の人たちと交流する楽しさを味わうことができました。Party の時、料理を装ってくれたり、控えめな自分を盛り上げてくれたチョーライ病院のスタッフの方々の優しさは忘れられません。チョーライ病院のスタッフの方々はとてもフットボールが上手であるため、来年のベトナムの研修に参加される学生には私たちの分まで頑張ってもらいたいです。



Welcome partyの様子（集合写真）

まとめ

10日間の研修は長いようで短く感じました。この研修を通じて、体験し学んだことがたくさんありました。

また、自分の将来の目標について見つめ直すこともできました。

病院実習では、日本とベトナムとの診療放射線技師の業務の違いだけでなく、実習へ臨む姿勢についても学ぶこともできました。4回生で臨床実習があるため、学んだことを活かしたいと思います。

さらに、病院実習では会話や質問を英語で行う機会が多く、最初は上手に伝えることができませんでした。しかし、試行錯誤し日々積み重ねることで、少しずつ英語力が身についていることを実感することができました。現地の診療放射線技師の先生方とのたくさんの出会いに恵まれ、交流できたことはとても刺激になりました。

また、たくさんの方との交流や体験を通して、今回のベトナムの海外研修で自分の目標を達成することが出来たと感じます。この研修で自分の足りない部分は今後の学校生活で身につけていきたいです。

最後に、台風の影響もあり、ベトナム研修が行えるのか心配な場面もあり、初めての海外研修で不安がたくさんある中、無事海外研修を終えることができたのも、今回引率して下さった霜村先生、小山さん、そしてサポートして下さった遠藤学長、松尾先生、水田先生、そしてチョーライ病院の診療放射線技師の先生方、研修中お世話になり、誠にありがとうございます。海外研修に参加させていただき、海外の人たちと交流することの魅力や自分の可能性を感じることができました。この経験を活かせるように日々精進していきたいです。

海外研修（ベトナム） 報告書

医療科学部 放射線技術学科 3回生 衣川 和希

私は、8月15日から25日までベトナム研修に参加しました。とても、刺激的でよい体験ができたことを以下に報告いたします。

〈病院研修〉

ベトナム（ホーチミン）の病院において4日間の研修を行った。日本とベトナムの違いを数多く発見することができたことを、以下に五つ述べる。一つ目は、患者数の多さである。チョーライ病院は、ホーチミンに位置し、ベトナムで3本の指に入るほどの病院の大きさである。そのため、病院の信頼度が高く、患者さんが多く集まる。加えて、ホーチミンでは交通量が多く、事故の多発も原因で、一日に2500～3000件のX線検査をしている。さらに、CTは一日フル稼働で、MRIの患者数も日本と比べてとても多く、スムーズに検査を行うことを重視していた。例えば、操作室に患者さんを待機させて、患者さんの入れ替えが、スムーズにできるよう工夫されていた。また、少しでも検査が遅れると、助かる命も助からないため上記の患者の入れ替えが必要である。二つ目は、プライバシーに対する考え方が違ったことである。特に、患者さんの前で読影を行ったり、撮影画像を普通に携帯で撮ったりしていたことには驚いた。三つ目は、被ばくについての考え方である。単純X線撮影の時、撮影室内にある更衣室で着替えを行っている患者さんがいるにもかかわらず、別の患者さんの撮影を行っていた。日本ではありえないことであるが、着替えから撮影までの時間を短縮できるため、検査の流れをスムーズに行うことができていた。また、医療従事者の方が線量計をつけていなかったのも驚きであった。四つ目は、技師の方が笑顔で患者さんと話していることが多かった。患者さんは、病院が慣れないところであり、緊張してしまうと思うので、それをほぐすコミュニケーション能力が重要だと感じた。五つ目に、ベトナムでは、技師が穿刺を行う事が許されていることであり、技師の方に大きな負担がかかっているように見られた。しかし、作業スピードがとても速く、とても素晴らしかった。



病院実習

上記の5つをまとめてみたが、すべて検査のスピードにかかわるものであり、患者の多さへの対処の仕方を学ぶことができた。

〈学会参加〉

8月23日にダナンで行われた学会に参加させていただいた。そこでは、多くの方が英語で学術発表をされていて、聴講するのに苦難した。しかし、スライドがとても分かりやすく、英語力のない私でも理解できるものであった。学会内容は、放射線治療のセッションを主として聴講し、わからない点は霜村先生に補足していただいた。また、質疑応答もすべて英語であり、英語の重要性を強く感じた。また、日本でトップレベルの方々の学術発表は、めったに聞くことができないと思うので、貴重な体験であった。また、発表された方々の雰囲気は、ずっしりと重く、気合を注がれているようだった。



学会

近い将来、英語が話せるよう努力し、このような場所で堂々と話せる力を身に着けたい。そのためには、知識のインプットだけでなくアウトプットをしなければ、能力として身につかない。なので、これからはアウトプットも意識して励んでいきたい。

ベトナムでの学会初参加では雰囲気を主に味わうことになったが、4回生で参加する日本の学会では、発表内容もしっかり理解できるだけでなく、日本とベトナムの学会の違いも比較したい。

〈交流〉

ベトナムの方は、とても気さくで笑顔が素晴らしかった。今回、サッカーやパーティー、自由時間で数々の交流をさせていただいた。言葉は上手く通じなかったが、とても深く交流できた。また、他言語を話す方の意見を理解しようとするのは、これから先、働いてからもとても役立つと思う。伝えようとする努力は、コミュニケーション能力の低い私を少し成長させてくれた。これからも努力を怠らずに励んでいきたい。



Thank you party

自由時間は、ベトナムの地元住民の方々と一緒に羽蹴りをした。とても上手く、ついていくのに必死だった。とても楽しくベトナム旅行をされる方にお勧めしたい。そして、もっとも印象的だったのはお金をだまし取られそうになったことである。海外では、こういった被害がよくあると話で聞いていたため常に外出するときは注意深くいたこともあって、うまくその場に対応でき盗まれずに済んだ。日本ではあまり起こらないことであり、とても良い経験となった。もし、また海外に行くことがあれば、注意喚起することに役立てたいと思う。

〈観光〉

ホーチミン市内の探索、メコン川ツワー、ダナンでのバナヒル観光に行った。ホーチミン市内では、道路が土日になると一部閉鎖され、周りの建物や噴水などを見ることができ、ベトナムならではの景色を見ることができた。ベントアン市場では、料理のレパートリーが多く味も最高だった。メコン川ツワーでは、



ランタン

スクールにも見舞われたが、民族料理や川の周辺の街並みは、印象深いものであった。観光で最もオススメなところはバナヒルである。バナヒルのロープウェイは世界一の長さで、ギネスに認定されている。ロープウェイの景色や頂上付近の風の心地よさは最高であり、神の手と呼ばれる巨大な手は、大迫力で印象的であった。工事をしているところがあり、少し残念であったが、それを差し引いても素晴らしいところであった。また、ベトナムに来たときは絶対に行きたいと思う。

〈感想〉

初めての海外旅行は、日本と全く違うことばかりであった。ベトナムに到着して初めに思ったことは、カレーのスパイスのような匂いがしたことだった。街並みに入ると、バイクの交通量がすごく、一台に5人も乗って走っているバイクがあった。また、バイクの荷物入れから赤ちゃんが出てきたことは、今でも目に焼き付いている。ベトナムでは信号が少なく、横断歩道を渡るときも、危険の連続で何度もクラクションを鳴らされ、非常に危険であった。

今回ベトナムで多くのことを学んだ。これは大きく分けて3つあり、英語の難しさと重要性、放射線技師の仕事についての見方、文化の違いである。文化の違いは、日本の素晴らしさやベトナムの素晴らしさを知ることができた。十日間という短い期間であったが、日本では経験できないことが多々あり、とても新鮮な生活であった。そして、先生方、先輩方、ベトナムの技師の方、サポートしていただいた方、友達に感謝し、この貴重な経験を生かせるように今後とも励んでいきたい。本当にありがとうございました。



ベトナムの町並み

海外研修（ベトナム） 報告書

医療科学部 放射線技術学科 3 回生 西塔 達哉

2019/8/15(木)～2019/8/25(日)の 10 日間ベトナムでの海外研修に参加させていただいた。この海外研修には下記の 3 つを目標として臨んだ。

- ① 日本とベトナムの病院の違いを学ぶ。
- ② 英語を用いて国際交流をたくさんする。
- ③ 初めての学会の雰囲気味わう。

1, 病院実習

8/16(金)～8/21(水)において、平日の 4 日間ホーチミンにあるチョーライ病院にて、一般撮影、CT、MRI、核医学、放射線治療の実習をさせていただいた。日本とベトナムの病院について、沢山の違いを知った。

1 つ目は患者の数である。チョーライ病院は病床数約 2000 床の病院である。初めて院内

に入った時は衝撃的で、通路は塞がれてしまうほどに多くの患者が検査を待っていた。一方、その状況下で、チョーライ病院の診療放射線技師の方々には、正確かつ迅速な検査を短時間で行うことが求められる。しかし、それを楽々とこなされる技師の方々の凄さにも驚かされた。

2 つ目は被ばく管理である。日本では「行為の正当化」「防護の最適化」「個人の線量限度」の順番で被ばく防護原則を順守している。そのため、放射線検査における被ばく線量を可能な限り抑えるだけでなく、術者に対してガラスバッジなどの個人被ばく線量計の装着と、被ばくを抑える行動を求め、定められた線量限度を超えない管理を行っている。しかし、ベトナムにおいては個人被ばく線量計を装着せずに業務を行っていた。また患者の家族が曝射中に患者を抑えたり、患者を寝台へ移動させたりしていた。患者の家族などによる検査補助が、多くの患者がいるチョーライ病院でのスムーズな検査に繋がるのではないかと考える。

3 つ目は技師の業務である。日本では診療放射線技師が行えない造影検査時に必要となる注射針の穿刺をベトナムでは行っていた。造影検査の際、診療放射線技師が注射針の穿刺を行っている間に、看護師は別の患者に対応することができるため、効率よく検査が行えるのではないかと考えた。さらに、電子カルテが普及しておらず、患者情報を毎回パソコンに手入力していた。このようにベトナムでは日本が現在行っていない業務も行っていることを知った。

4 日間の病院実習を通してたくさんを経験し、学ぶことができた。このような貴重な機会を与えていただ

ベトナム研修スケジュール

8月15日(木)	関西空港からホーチミンへ
8月16日(金)	病院実習
8月17日(土)	メコン川ツアー
8月18日(日)	Free Time
8月19日(月)	病院実習、フットサル、Welcome Party
8月20日(火)	病院実習
8月21日(水)	病院実習、Farewell Party
8月22日(木)	ホーチミンからダナンへ、ホイアン観光
8月23日(金)	VART Conference、Gala Dinner
8月24日(土)	バナヒル観光
8月25日(日)	ダナンから関西空港へ

いたチョーライ病院の技師の方々、京都医療科学大学の先生方に感謝申し上げます。



実習中の様子

2, 学会参加

8/23(金)にベトナムの学会に参加させていただいた。学会参加は初めてで、学会という言葉の響きからとても堅苦しい印象を持っていたが、会場がまるでパーティのような雰囲気であったため、その印象は一変した。日本からも多くの診療放射線技師の方々が学会に参加しておられ、世界中の診療放射線技師が集まる中、流暢な英語で堂々と学術発表されていた。私の英語力が低いため内容の理解には苦しんだが、日本の技師の方の発表はとても分かりやすく私でも所々知っている単語を聞き取ることができた。専門的な内容であるが誰にでも理解してもらえるような分かりやすい言葉を使うことが大切であると感じた。学会参加を通して英語の大切さ、表現の大切さを学ぶことができた。また、海外で活躍している技師の方々と出会い、私も将来このようになりたいと思った。



学会での集合写真

3, 観光

8/17(土)にはメコン川ツアーに参加した。このツアーはエンジン付のボートでメコン川をクルージングし、メコン川周辺の自然を味わうというものである。メコン川はあまり綺麗とは言えなかったが、現地の人がとても気持ち良さそうに泳いでいる様子が見られた。また、途中でスクールに見舞われたりと、このツアーを通して日本では見られない自然の恵みを感じることができた。

8/22(木)にはホーチミンからダナンに移動し、観光のためにホイアンに向かった。ホイアンでは日本人が造ったとされる日本橋や、夜にはライトアップされたランタンが見られる。夜のホイアの街並みはとても幻想的で心を打たれた。



ホイアのランタン



神の手

8/24(土)にはダナンの観光名所であるバナヒルに行った。バナヒルとは中世ヨーロッパをイメージした建造物であるため、バナヒルに着いた瞬間、まるでヨーロッパにタイムスリップしたかのようなようであった。そこで特に印象に残ったのは神の手とそれが支えるゴールデンブリッジである。神の手を見た時、その大きさにたいへん驚いた。その一方で、そこから見える大自然は美しく、心が癒された。バナヒルに行くまでに乗るケーブルカーの全長はギネス記録にも認定されており、その長さとは高さには圧倒された。バナヒルには子供から大人まで楽しめるアトラクションがたくさんあり、私自身とても楽しむことができた。

4, 国際交流

8/19(月)の夕方にチョーライ病院の技師の方々とフットサルをした。夕方にも関わらず非常に暑かったが、スポーツによって流す汗は気持ちよかった。チョーライ病院の診療放射線技師の方々はサッカーが上手で、経験者が1人しかいない私達のレベルに合わせてくれたため、とても楽しむことができた。そのため、スポーツを



フットサル

通じてチョーライ病院の診療放射線技師の方々と親睦を深めることができた。元々、私はフットサルを進んでやりたいとは思っていなかったが、実際やってみるとその気持ちは一変し、またやりたいと思った。このフットサルを通して、なんでも挑戦することの大切さを学ぶことができた。就職してから、病院内での勉強会や、活動がある時は積極的に参加したい。

8/19(月)と8/21(水)にはチョーライ病院の診療放射線技師の方々とパーティを行い、ビールを飲みながら楽しく親睦を深めることができた。私は、これまで外国の方とあまり交流したことがなかったため、最初はとても緊張していた。しかし、チョーライ病院の方々はとても優しく接して下さり、乾杯をする度にどんどん緊張がなくなっていく。また、会話をする際も私達のためにゆっくりと体を使って話してくれたため、英語が苦手な私でも理解することができた。パーティの次の日も仕事であるにも関わらず、チョーライ病院の診療放射線技師の方々はたくさんお酒を飲み、私達を歓迎してくれた。しかし、次の日の業務はしっかりと行われていて、私も遊びと仕事の切り替えができる人になりたいと思った。

5, まとめ

10日間の海外研修を終えて、最初に述べた3つの目標は達成できた。さらに、自分の英語力の無さを実感し、英語を一から磨きたいと思うようになったと同時に、Body Languageの大切さも学ぶことができた。今回の研修を通して学んだことを活かして、今後の勉強も励みたい。

海外研修（ベトナム） 報告書

医療科学部 放射線技術学科 3回生 清水 悠吾

初めてベトナム海外研修に参加しました。今回のベトナム海外研修では、考え方の違いを知ることで自分の視野を広げる、積極的に英語を使って会話することで自分の英語力を試し、把握することを主な目標として海外研修を受けました。

○ベトナム

初日にホーチミン市に着いて、ベトナムの匂いに違いを感じ、交通量の多さに衝撃を受けた。5人を乗せて走るバイクや、信号がなく車やバイクが走行し続けている道路の横断、日本では見られない光景であった。初めはベトナムの常識に慣れることに苦労したが、1週間後には日本とは違う道路の横断が出来るようになった。



↑ ホーチミンの街並み

○病院実習

私たちはチョーライ病院で4日間病院実習を受けた。感じたことや気付いたことが5つあった。1つ目に、廊下でストレッチャーに寝て診察や撮影を待っている患者や廊下の床に寝ている患者が多く見られ、日本の待合室の光景と大きく違っていたため驚いた。2つ目に、日本ではストレッチャーからCTの寝台へ患者を移動させる場合は、医療従事者が補助する。しかし、ベトナムでは付き添いや検査を待つ患者が協力して補助を行っていた。3つ目に、CT撮影時には付き添いの人が鉛エプロンを着用せず患者の固定補助を行なう場合があった。また技師の方々は、ガラスバッジを着用しておらず、被ばくに対する意識が低いと感じた。4つ目に、ベトナムの診療放射線技師は、造影検査時の穿刺や抜針も担当し、日本に比べて業務量は約2倍と多い。しかし、効率良く撮影を行っていた。そのため、診療放射線技師間だけでなく他職種とのチームワークはもちろんのこと、患者および付き添いの方とのコミュニケーションも大事であると感じた。



↑ 核医学検査の実習風景

5つ目に、RIS や HIS は導入されていないため、デジタルデータとして画像を他の部門に送ることができず、フィルムを使用していることである。紙カルテも日本では見る機会は少なく、発表で活かすことができる良い知識を得た。CT の研修は、撮影条件の設定から撮影までやらせていただいた。日本の臨床実習ではできないため、貴重な経験となった。核医学検査の実習では、サイクロトロンの中を見せていただき、写真でしか見たことがなかったため、イメージがしやすくなった。放射線治療では、患者の固定精度は日本よりも高いことや、日本にはまだないABC システムという患者の呼吸を制御し照射範囲を制限する機器を見せていただいた。そのため、自分の知識を広げることが出来た。

○交流

パーティーや観光、サッカー、自由時間でのベトナムの方々との交流から、ベトナムの方々はとてもフレンドリーで、話しやすいという印象を受けた。私は英語を話すことが得意ではなかったが、知っている単語を並べて話すこと、ジェスチャーをすることにより会話をすることが出来た。聞き取れるまで聞き返したが、ベトナムの方々は嫌な顔もせず、聞き取りやすいようにゆっくり話してくださった。英語を理解することが難しい私たちに、親切にしてくださるベトナムの方々には感謝の気持ちでいっぱいだった。パーティーではさらに親睦が深まり、ベトナム料理の食べ方や、観光名所を教えてくださいました。自ら英語で話しかけることにより、英語力が向上した。



↑ サッカー後の集合写真

○学会

初めての学会参加であったので雰囲気もわからなかったが、学会がどのようなものか知る良い経験となった。日本を代表する診療放射線技師の方々の発表を聞いた。英語で発表や質疑応答を物怖じせず、堂々と話す姿を見て少しずつ英語の勉強を始めなければならないと思った。学生でも理解出来るスライドもあり、集中して聞くことが出来た。また発表する人によって話す速度や発表時間も違い、今後自分がスライドを発表する時に、何に注意して発表すべきかを知ることが出来た。今回の学術発表を聴講して、日本にはないABC システムという患者の呼吸を制御して照射する治療で用いられるシステムに関する演題が印象に残った。病院実習時にABC システムの機器について実際に見て説明を受けたため理解することができた。自分にはまだ知らないことがたくさんあり、学会などに積極的に参加することで様々な知識を得ることが出来ると感じた。機器展示も会場内で行われており、最新の機器を見ることができた。自分が技師になった時に使用する最新の機器について早く学んでみたいという気持ちになった。来年日本の学会に参加するが、今回参加したダナンの学会との違いについても学びたいと思った。



↑ 学会での集合写真

○観光

ホーチミン市内やメコン川の観光、ダナンでのホイアンやバナヒルの観光をした。メコン川は日本の川とは規模が違っても印象的であった。バナヒルは、世界最長のロープウェイに乗り巨大な神の手をみることができ、中世のフランスをイメージしたテーマパークである。ロープウェイから見える景色は壮大で、雲と同じ高さから見下ろす密林や滝、川の風景は目がくらみそうなほど大迫力であった。神の手と呼ばれる巨大な手が黄金の橋を支えていた。手はコンクリートで作られており、想像を超える大きさであった。今回は巨大な大仏を正面から見ることは出来なかったが、遠くからでもわかるほど大きかった。バナヒルの観光の後、ドラゴンブリッジに行った。火や水を吹く姿は見る事が出来なかったが、約666メートルという橋の長さを感じることが出来た。次にダナンに訪れた時は、絶対にドラゴンブリッジに行き、火や水を吹く姿を見たいと思った。また、Diamond Seaホテルの前の海に泳ぎに行くと、日本に比べ少し波が高くて楽しかった。世界文化遺産のホイアンは、暗くなると通りに飾られているランタンが灯り、とても幻想的であった。



↑ホイアンのランタン

○感想

初めて海外を訪れたことによって、盗難防止のために財布を2つに分ける、タクシーでのお釣りは確認するといった日本では思いつかない発想を得ることが出来たと感じました。ベトナムでの海外研修を終えて、より多くの国の考えや常識を学ぶために様々な国を周ってみたいと思うことが出来ました。また、自分の英語力を痛感しました。今回のベトナム海外研修ではジェスチャーや単語を並べるだけで乗り切れましたが、英語力を向上させる事でより良いコミュニケーションが取れることを感じました。そのため、毎日少しずつ英語のリスニングや発音を学習していこうと思いました。また学会では見やすいスライドの作成方法や伝わりやすい発表の仕方、今後の総合研究などに活かせることをたくさん経験でき、学生のうちに自分の考え方を見直すことが出来ました。最後になりましたが、現地でお世話になった診療放射線技師の方々および、このような貴重な機会をいただいた本校関係者の方々に感謝申し上げます。

海外研修（ベトナム） 報告書

医療科学部 放射線技術学科 3回生 西村 真幸

この度、2019/8/15～24 までの 10 日間、ベトナム研修に参加しました。非常に有意義な経験をする事ができました。その内容を報告します。

ベトナムの生活

ベトナムでの生活は経験したことがないものばかりであった。まず、一つ目は、水道水が飲めないという点である。水道水を飲むとお腹を下してしまうため、コンビニで販売している水を購入した。歯を磨く時、水道水が使用できないため購入した水を使用するため、とても不便であった。二つ目は、交通量の多さである。日本では交通量が多い場所でも、信号など交通ルールが機能しているため交通整理されているが、ベトナムでは信号はあるものの、バイクは赤信号でも右折が可能のため歩行者からすればあまり関係なかった。なので、私たちが道を渡るときは、バイクや車を止めて少しずつ進むようにしていた。初日は慣れず、渡ることが怖かったが、ベトナムの人々を真似するうちに、後半はスムーズに渡れるようになった。三つ目は匂いである。日本ではあまり見ないフルーツや魚などが露店で売られていて、その中でもドリアンの匂いは独特で私はあまり好まなかった。最初は鼻で呼吸することが辛かったが徐々に慣れ、気にならなくなった。私は慣れることの大切さを改めて知った。そして、四つ目は物価の安さである。コンビニに行き、カップラーメンの値段を見ると 25～100 円ほどで、服なども安かったためとても驚いた。私は服を買うことが好きなのでとても嬉しかった。

2. メコン川ツアー

メコン川までバスで二時間かかったが、朝早かったため皆寝ており、すぐ着いた感覚であった。メコン川ツアーの最初は皆でボートに乗り、メコン川を長い時間渡った。そして、途中でボートから降りて昼食をとった。昼食の内容は魚などのベトナム料理を振舞っていただいた。その後、ボートに戻りメコン川を渡っているとスコールに見舞われた。今まで感じたことのない雨の量でとても驚いた。しかし、ボートには屋根があったため特に問題はなかった。スコールなので少ししたらすぐにやんだ。日本ではスコールなどないので、とても貴重な経験をした。



3. 病院実習

病院実習では4日間ホーチミンのチョーライ病院にお世話になった。チョーライ病院は2000床もある大病院であり、ベトナムでは三大病院の一つである。日本に比べると患者さんの数がとても多く、地面にも患者さんが座る状態である。日本ではベトナムに比べると患者さんが少なく、地面に座っている状態にならないので驚いた。今回、実習は2人一組で行動し、3カ所をランダムで見学させていただいた。実習初日、ベトナムの



放射線技師さんとの会話が英語であったので理解できない場面が何度もあったが、実習2日目以降はその都度、携帯のGoogle翻訳を使用し会話を成立させた。ベトナムの放射線技師さんもGoogle翻訳を使ってくれてとても助かった。実習中は仕事内容についてや、日本とベトナムの仕事内容の差などを教えていただいてとても勉強になった。そして見学しているときに気づいたことは日本とベトナムの差は患者さんの移動である。日本では、患者さんは看護師の方に連れられてるが、ベトナムではほとんどの方が患者さんの家族や友人に検査室へ補助されて入室する。もう一つの違いが日本では看護師や医者が針を刺すのだが、ベトナムでは放射線技師の方がほとんど針を刺している。日本とは大きな違いがあるのだと感じた。3日目は7人に分かれて、CT室や核医学検査室の見学を行った。見学では、装置をどのように使用するか、放射線医薬品についての説明を聞いた。この病院実習を通して、モチベーションが上がったのでより勉学に励みたいと思う。そして将来技師になった時、この経験を活かし、活用していきます。

4. 学会発表 (conference) ・ gala dinner

学会発表はダナンで開催された。展示スペースには最新の機器が数多く置かれていた。そして大きなホールでは、放射線技師の方などが発表されていた。発表内容はすべて英語であり、発表中はGoogle翻訳が使えなかったため、内容を理解することが困難であった。しかし、少しでも理解しようと普段以上に集中し、わからない部分はスライドを見て理解するようにしていた。



学会発表をしている方たちを見ていると、いつか自分

も学会発表している方たちのように発表したいと思った。なので、まずは日常で使う英語を覚え、専門的な英単語を覚えていきたい。発表の内容は詳しくはわからないが、立ち振る舞い、話し方など、多くを学び実践していきたいと思った。そして学会発表終了後、gala dinnerがあった。gala dinnerは多くの人が集まり、ベトナムの演芸などを楽しんだ。私たちはベトナムの国歌を歌い、ダンスを踊った。そして、gala dinnerで出された料理はとてもおいしく、出されたワインも渋みと甘みが丁度よく飲みやすいものだった。

5. Welcome party・Farewell party

Welcome partyとFarewell partyではベトナムの放射線技師の方たちとの交流を深めることが出来ました。ベトナムの方たちはとても陽気ですぐに仲良くなることが出来た。しかし、ベトナムの方たちはお酒に強く、後半になるにつれ私は休憩を多くするようになった。国際交流が出来てとても良かった。



6. バナヒル観光

バナヒルはケーブルカーに乗り、山よりも高い場所にある観光名所である。この行きと帰りに乗るケーブルカーは世界で一番長く、ギネス認定されている。とても印象に残っている場所は、神の手を表現した大きな手が支える橋である。ここから見る景色はとても美しく目を奪われた。

7. ホイアン

ホイアンは世界遺産であり観光地で、ランタンがとても有名である。ランタンは昼でも綺麗であるが、夜になると街並みと相まって、とても美しく、川に映ったランタンはとても幻想的で夢の国にいるようであった。



8. 飛行機の行き・帰り

飛行機は人生で二回目であるが、恐怖心は消えていない。離陸する際が一番怖かった。飛行機の態勢が安定すればあまり恐怖心がなかったが、音がとても大きい。機内食はおいしくとてもよかった。行きの飛行機は映画を見ることができた。私は「ボヘミアンラプソディー」という映画を見た。この映画はとても感動する話になっているので是非とも見てほしい。帰りの飛行機は映画がなく、とても暇であった。夜中に帰っているということもあって映画がないと思うのだが、音が大きい為、寝ることが出来なかった。

感想

この10日間で一番印象に残っていることは学会発表と病院実習である。学会発表では発表している方の姿を見て私もいつか海外で発表したいと強く思った。病院実習では仕事風景を見学し、早く私も病院に勤めたいと思った。多くのことが初めての体験であったのでとても短く感じる10日間でした。

謝辞

本研修において、最後まで指導して下さった、先生方に心から感謝いたします。そして、お忙しい中、私たちに指導して下さったチョーライ病院の方々に感謝いたします。

海外研修（ベトナム） 報告書

医療科学部 放射線技術学科 3 回生 橋戸 了哉

8 月 15 日～8 月 25 日までの 10 日間、ベトナム研修に参加した。
すべてが初めての経験であり、非常に貴重な体験となった。その内容を報告する。

病院実習(Cho Ray Hospital)



8 月 16 日、19 日～21 日の 4 日間、ホーチミンにあるチョーライ病院で実習をさせていただきました。1 日目に CT、2 日目に MRI、3 日目に CT Emergency、4 日目に核医学と治療を見学し、日本とベトナムの病院で異なる点をたくさん見つけることができました。

1 つ目は、患者数の違いである。チョーライ病院は、日本の大学病院よりも 2 倍近く of 患者さんが来院する大きな病院の一つである。そのため、どのモダリティの検査数も多く、ベトナムの診療放射線技師は効率よく撮影を行うことを求められること

が分かった。

また、チョーライ病院は一般の市民病院等には設置されていない医療装置などがあるため、南ベトナムの多くの患者さんが利用されることを技師の方に教えていただいた。

2 つ目は、診療放射線技師の業務内容である。日本では造影剤の静脈投与の際、穿刺はできないがベトナムでは穿刺から抜針および造影剤の注入まですべて技師のみで実施している。そのため、検査時に医師や看護師の立ち会いの必要がない。また看護師の数が少ないため、患者さんの家族が付き添い撮影室まで搬送される。それに比べて、日本では、多くの入院患者が看護師により撮影室に搬送される。これらのことは、患者数が多いことから撮影の回転率を上げるための工夫の一つである。

3 つ目は、病院のシステムである。チョーライ病院には HIS や RIS がないため、CT・MRI・一般の X 線撮影のすべてで、フィルムを使用している。撮影した画像をフィルムにし、それを患者さんに渡すことで医師に届けられる。医師がそのフィルムで診断した後、フィルムとともに処方された薬を受け取り帰宅する。薬がなくなれば受け取っていたフィルムを持って再度診察を受け、過去のフィルムと再度撮影したフィルムを比較し診断する。その



▲実習風景

際、患者さんがフィルムを無くしたり忘れた場合には、CD-Rに保存してある画像から探す必要がある。実際にフィルムを使い、そのフィルムを入れる袋に患者一人一人の名前を書いているのを見て、電子カルテのある日本がとても便利だなと感じた。

学会 (VART conference)



私は、初めてベトナムのダナンで開催された学会に参加した。学会では様々な国の方が研究発表されていたが、その中でも、日本人の方の発表を聞かせていただき、どの方も多くの人の前で英語で発表をされている姿にあこがれを感じた。そして自分の英語力がまだまだであると感じた。学会では日本人の方をはじめ、多くの国の方が発表されており、流暢な英語で話されていた。スライドの写真や知っている英単語で内容を少し理解できたが、まだ習っていない内容を英語で理

解するのはとても難しかった。卒業するまでに少しでも英語を勉強して多くの外国の方とコミュニケーションが取れる人になりたいと感じた。また、将来私もあのような舞台上で発表ができる技師になれるように頑張りたいと強く感じた。

観光 (Mekong River & Hoi An & Ba Na Hills)

私たちは、ホーチミン、メコン川、ホイアン、バナヒルズを観光した。

ベトナム研修の前半はホーチミンで過ごした。ホーチミンではチョーライ病院の実習が主であったが、病院実習以外の自由時間にはホーチミン市内を観光した。店で買い物をしたり、ベトナム料理を食べ、マッサージで研修の疲れをとることができた。ベトナム料理は最初、私の口に合わないと思っていたが、日本食と似ている料理も多く、とてもおいしかった。特に空芯菜は、初めて食べたがとても美味しく驚いた。

3日目、大きな船でメコン川やジャングルを横断するツアーに行った。周りの木には見たことのない果実がなっていたり、そこで泳ぐ現地の子どもたちをみて、自然を感じることもできた。また、ココナッツキャンディーができる過程を見た後、そのキャンディーとドライフルーツを食べた。どちらも初めて食べたがすごくおいしかった。

8日目、ホーチミンからダナンに移った私たちは、ホイアンに観光に行った。そこは日本橋に似せた橋が架かっているなど、日本を再現したような場所で、日本円も使えることに驚いた。ランタンが夜の街を照らしており、とてもきれいで幻想的であった。

最終日には、バナヒルズというテーマパークに行った。ロープウェイで雲の上まで行くため気温は涼しく、すごく居心地のよい場所であった。そこで、アトラクションやゲームを楽しんだ。



▲バナヒルズでの集合写真

国際交流

ベトナムの方は、みんなとてもフレンドリーで、英語が苦手な私でも理解できるまで何度も話しかけてくれた。私が、コミュニケーションの点で一番頑張ったと思うことが、ホーチミンからダナンへの飛行機の中で、隣に座ったベトナム人の男性と会話したことだ。Wi-fiが使えない状況で、翻訳が使えないため私の持っている知識だけで会話をしなければいけないというすごく厳しい状況であったが、何とか body language などでも乗り切ることができた。

その他にも、Welcome party や farewell party、学会後の gala dinner ではお酒の力もあり、たくさんの人と仲良くなることができた。Welcome party の前にはベトナムの技師の方たちとサッカーをして交流関係を深めることができた。ベトナムの方は、お酒にとっても強いという印象を受けた。改めて、お酒とは飲みすぎはよくないが、適度な量では友好関係を深める良いツールであると実感した。

ベトナムに行く前に比べて、格段に英語が上達したと実感できた。今後もしっかりと多くの外国の方と積極的に英語でコミュニケーションを取っていきたい。



▲Farewell party での集合写真

まとめ

今回のベトナム研修では、文化・言語・環境の違いを身に染みて実感することができ、たくさんのことを学ぶことができた。一番プラスになったことは、外国の方とのコミュニケーションがベトナムに行く前より格段に上達したことである。言語が違い、伝えたいことをうまく伝えられない中、いかに伝えるかを考えて会話することがとても良い経験になった。しかし、まだうまく英語で会話ができるわけではないので、もっと英語を勉強してたくさん外国の人とコミュニケーションをとっていくことが今後の目標である。

日本・ベトナムそれぞれの良いところを見つけことができ、その上でまたベトナムに行きたいと思った。

海外研修（ベトナム） 報告書

医療科学部 放射線技術学科 3回生 松本 孔希

文化について

まず空港から出て一番感じたのは、ベトナムと日本の交通量の違いである。ベトナムは原付バイクの量がとにかく多く、なぜ事故を目撃しなかったのか不思議に感じる程であった。横断歩道も日本では、車が止まり安全に渡ることができるが、ベトナムでは強引に渡らなければ車やバイクは止まってくれない。だから何度もヒヤヒヤした場面があった。タクシーに乗った時も目的地へゆっくり行ってもらえれば良かったのだが、反対車線にはみ出して前の車を抜かしていくので怯えていたが、アトラクションみたいで少し楽しい気持ちもあった。食文化も日本と違う所があった。ベトナム料理はパクチーが多く使われており、私はパクチーの匂いが苦手なため食べることができなかった。美味しそうな物もあったのでパクチーをどけて食べていた。また、海鮮料理などのヘルシーなものが多かった。その中でも特に美味しいのはエビだ。調味料は辛い物が多く、それをエビに少しつけて食べると辛味がうまくマッチして本当に美味しかった。ただ、唐辛子だけは辛すぎて余程の辛い物好きでなければ食べるべきではないと思った。

街や人の様子も日本とは全く違った。道端にタバコなどのゴミがあり、靴など日本では考えられないような物もたくさん捨ててあった。そのせいかは分からないが街も良い匂いとは言えず、結構苦手な匂いだった。道には行商がとても多く、売っている物は様々で財布やおもちゃ、サングラスなどがあった。人柄はみんな優しい印象を受け、これはタクシーの運転手に多かったのだが、一見怖い人に見えても最後は笑顔でセンキューと言ってくれたので良い人なんだなと感じた。ベトナムの方たちの一番好きな所は、みんなの笑顔がとてもかわいいことである。関わった人達が目上の人ばかりだったのでこの表現は失礼にあたるかもしれないがそこが一番良いなと感じた。



ベトナムの交通



ベトナムの料理

実習と学会について

今回の実習ではチョーライ病院に行かせていただいた。ベトナムの中でも三大病院の一つで病床数が2000床と日本の病院よりも多い。病院実習は全部で四日間あり、私はCTとMRIと核医学を見学させていただいた。日本では造影剤の注射は看護師がするが、ベトナムでは放射線技師がする。患者数も日本の倍くらい在籍していると伺った。そのため回転率を上げるために一つの装置に対して技師が4~6人いた。部屋も狭く私たちは技師の方たちの動線を邪魔しないよう場所を確保するのが大変だった。患者は交通事故による人が多いと聞いた。技師の方の中には、私たちが英語で聞き取れなかった部分を日本語で教えてくださる方もいたので、とてもありがたかった。最終日はSPECTとPET見学をさせていただきました。放射性医薬品を製造している場所を見学することができ、日本の病院実習では見ることができなかったのもとても貴重な経験ができた。その様な経験から患者が多いときの技師の立ち回り方や、看護師などの他の職種の方達との関わり方等を知ることができたので、放射線技師になった時に生かそうと思う。

学会は初めての体験だったため緊張した。技師の方達が英語で発表されていたため、詳しい内容までは理解できなかったが、パワーポイントの画像などで何について話しているかは理解できた。学会発表以外にも、色々な会社の機器が展示してあって会社によって形なども違って興味を惹かれた。そして、何より私が感じたのはやはり英語はとても重要だということだ。日本の技師の方が英語で発表や質問をされ、さらにジョークを織り交ぜて笑いを誘う方もおられ、素直にとってもカッコいいと感じた。この学会は英語を本格的に勉強するかなり良いきっかけになった。

その後のガラディナーパーティーはパーティーと言っても学会のパーティーのためもっと静かなものかと思っていたが想像を遥かに超え、音楽がかかっており、とても楽しかった。私たちはベトナムの歌等を披露した。周りの人が喜んでくれたかは分からないが、私たちは楽しめた。松尾先生が全部歌えていたのが素晴らしいと感じた。私の顔を覚えてくれていた人もいて嬉しかった。その日に初めて喋るベトナムの方もいて緊張したが、ボディーランゲージでコミュニケーションをとることができたと同時に伝えたい事をジェスチャーを交えて話す事は、これから海外に行くときとても大切だと知ることができた。ワインを出されたがあれは一生飲まないと心に決めた。そして、ベトナムの人はビールなどのアルコール度数が低いお酒だけではなく、ワインもたくさん飲まれていて、なぜそんなにお酒が強いのか不思議に感じた。



学会

観光について

ベトナム生活三日目はメコン川ツアーに行った。まず、メコン川を船で渡り村のような所へ行った。そこでは大きいアナコンダを触り、ポップコーンやクッキーを作っているところを見学させていただいた。野良犬がとても多く可愛らしかった。昼ご飯はピラニアのような魚が出てきた。食べたことが無かったためどんな味なのか怖かったが私は元々魚が好きなのでとてもおいしくいただいた。市場へ行き、日本では見ることができないドリアンやドラゴンフルーツ、ランブータン等の食べ物がたくさんあった。その中でも私が最も驚愕したのは、カエルの丸焼きだ。皆は「おいしくなさそう」と話していたが、私はかなり食欲をそそられた。だが屋台の料理は腹をくだしやすくと聞いたため食べなかった。いつか機会があれば是非ともチャレンジしたい。ベトナム滞在の最終日はダナンにあるバナヒルズへ観光に行った。そこは標高がとても高く、ロープウェイで上まで行かなければならなかった。そのロープウェイは「世界一長いロープウェイ」としてギネスブックに載っている。水田先生は高所恐怖症らしくロープウェイに乗っている間ずっと怯えていた。最初はとても暑かったが、上に行くにつれて徐々に涼しくなり、頂上では肌寒い程だった。頂上には大きい手の上に橋が架かっており世界遺産にも登録されている。友達に聞いた話によると映画の舞台にも使われており、さらに韓国の有名グループのTWICEも観光に行くほど有名な所だと後から知った。バナヒルズには遊園地もあり、園内はユニバーサルスタジオジャパンをオマージュしたような感じだった。アトラクションはフリーフォールやジェットコースター等の私たちくらいの年代が楽しめるようなものから小さい子も楽しめるようなものもあった。だが基本的に友達同士で行くところよりはファミリー向けであった。その他にも自由時間にはホーチミンの街を散策し、日本の街並みとの違いを比べていた。ベトナムの街は、中心部の方へ行くと高層ビルなどが見られ日本でも見られる様な服屋があり、日本との違いは見られなかった。だが少し歩くと私が想像していたベトナムの街並みで、野良犬が普通に道を歩いており、ベトナムの民族衣装である「アオザイ」が売っている店が多く見られた。また、何故かは分からないのだが薬局が三軒程連続で並んでいた。自分なりに何故か考えた結果、やはり食品や街の空気などの衛生状況が良くないからだとは推測した。夜には繁華街のような所へ行きマッサージの店に行き研修の疲れを癒していただいた。足がかなり楽になったので来年ベトナムに行く人達にも是非体験してもらいたい。



メコン川ツアー



バナヒルズ

まとめ

今回の研修旅行に行って、日本と他国での文化や病院の違いを知ることができた。また、初めての学会参加など初めての経験が色々できとても有意義な時間を過ごすことができた。個人的にベトナムが気に入ったのでもう一度行きたいと思う。

海外研修（ベトナム） 報告書

医療科学部 放射線技術学科 3 回生 吉川 優輝

病院研修

私たちはホーチミンにあるチョーライ病院で病院研修を行った。

まず私が驚いたのは、廊下を埋め尽くす患者たち、床に落ちたまま放置された血のついたガーゼ、壁に穴が空いている検査室であった。清潔に保たれている日本の病院とは雰囲気が全く違い、自分が病院の中にいるという実感が最初は湧かなかった。



チョーライ病院見学の様子

チョーライ病院の規模は大きく、病床数 2000 床、1 日の検査数は 3000 件近くである。そのため、検査は朝の 6 時から始まり夜の 12 時まで続く。効率よく患者を捌くためなのか、一つの検査が終わると患者が退出するよりも先に次の患者が検査室に入室していく様子がよく見られた。また操作室の中で次の患者が待機しており、操作画面や得られた画像を他の患者が容易に見ることが出来た。患者のプライバシーよりも仕事の効率が優先されているようであった。

病院内の景観や患者のプライバシーは日本で重要視されているが、より病院にとって本質的な「診断する」事に

ベトナムでは力を入れていたように感じた。

また、日本との違いを挙げると、撮影した画像は PACS には送らずディスクに保存していた。これは電子カルテが日本と比べ発達していないためである。現像したフィルムは患者の次回来院時に持参してもらうようになっており、忘れられた時など大量のディスクの中からデータを探さなければならない。日本もフィルムを使っていた時、保存場所を確保しなければならなかったという話を思い出し、電子カルテの有用性を再確認した。

学会参加

私にとって初めての学会参加が海外の学会であるというのは大変思い出深いものとなった。



学会で発表された方達との集合写真

終始穏やかな雰囲気の中でプレゼンが行われ、学会というものが堅苦しいものであると考えていた私はリラックスして聴講することができた。

聴講した学術発表はインターナルセッションであったため、英語の不得意な私は話の大半を理解することはできなかったが、スライドの図やグラフによって大まかな流れを推測することができ、霜村先生に解説をしていただいたことで大体の流れを把握できたように思えた。英語が理解できればさらに楽しむことができた

と思うと今まで英語を学習してこなかったことを後悔した。

その日に開催された学会のパーティー（Gala dinner）に参加した。学会同様にパーティーに参加するのも初めての経験であった。大変華やかなパーティーで絶え間なくステージでパフォーマンスが行われ、参加者も大変多くその雰囲気に終始圧倒された。パーティーの最後は日本人の参加者がステージで歌を披露することが毎年恒例のようで一番会場が盛り上がっていたように感じた。

交流

チョーライ病院の医療スタッフの方達は、私の担当の方以外であっても、目が合えば話しかけてくれたり、笑顔で会釈してくれたり、顔を見かけるたびに長い時間話に付き合ってくれる方など私たちを受け入れてくれているムードが漂っており、海外の病院での実習で少なからず緊張していた私は大変助けられた。ベトナム人技師の方々のほとんどが英語を喋れたことが驚きであった。それも自分の母国語のように使いこなす方達がほとんどで私自身の不勉強さに恥ずかしさを感じるほどであった。しかし、ほとんど英語の喋れない私に対してでも時間をかけて何を言いたいのかを汲んでくれる方達ばかりであったためなんとかコミュニケーションをとることができた。



サッカー会場での集合写真

催し事としては、サッカー、パーティーがあった。サッカーではベトナム人技師の方達は年齢関係なくパワフルで一回りも二回りも若い私達よりも余裕を持ってサッカーを楽しんでいるように見えた。私が驚いたのはベトナム人技師の方たちの酒の強さである。彼らのペースで同じように酒に付き合い、次の日動ける気が全くしなかった。四日という短い実習期間であったが気さくに明るく接してくれ迎え入れてくれたことが大変嬉しかった。

文化・観光

<交通>

ベトナムに着いて最初に驚かされたのはバイクの交通量と、日本との交通マナーの差である。数人でのバイク乗車、ヘルメット未着用での運転はベトナムでは当たり前のようにあった。そのためか病院実習中にバイク事故による外傷と思われる患者を見る機会が多かった。バイクはベトナムに住む人々の生活に欠かすことの出来ない移動手段であることが容易に想像できた。



特産品作りの様子

<食事>

ベトナム料理の多くにパクチーが使われている印象をもった。そのため、日本人の好みがはっきり分かれる料理が多かったように思う。また、野菜や魚介類中心で、肉料理が出てくることは稀であった。私が気に入ったのは、空芯菜の炒め物や、海老、ランブータンと呼ばれる果物である。ランブータンはライチに味が似ていて食べやすかった。

<観光>

ホーチミン市街、メコン川、バナヒルで観光することができた。ホーチミン市街は繁華街といった感じで大変賑やかで、バナヒルは標高が高く景色も綺麗であったが、私が特に印象深かったのはメコン川ツアーである。船の上で生活している人々や、そこで採れたココナッツを使った特産品を作っている人たちなど、そこで暮らす人たちの仕事や生活を観ることができたのは貴重な体験であった。



メコン川ツアーの船上の様子

感想

意識を変えさせられる出来事の多い10日間であったと思う。まず英語を使えるようになりたいと思えたことである。病院実習において向こうから話しかけてもらえることはあっても、英語の喋れない私はコミュニケーションを満足に取ることもできないし、ましてや自分から話しかけることは容易ではなかった。

色々なサポートをしてくださっているチョーライ病院の方達に自分の思っていることを伝えたいと思っても上手くいかず何度も歯がゆい思いをした。学会では様々な国の人たちが英語を使ったやりとりをしていたが、その輪に入ることのハードルの高さを感じさせられた。もちろんその分野の知識を持っていることも重要であると思うが、英語が喋れないということはもっと致命的であるように感じられた。自分の可能性を広げるという意味においても英語をある程度使えることは意味のあることであると思う。

日本とは環境が全く違う発展途上国で10日間生活できたことも良い経験であった。私たちは観光客であったため移動にはタクシーを使ったが、現地の人たちの多くはバイク移動であった。日本と比べて良いとは言えない交通ルールのためか多くの人が事故で病院に運ばれていた。それに比べて日本では交通ルールも整えられ、公共交通機関も豊かである。そのため事故に遭うリスクもベトナムに比べてきっと低いのだろうと想像できた。自分たちの環境が恵まれていることも再認識できた。

海外研修（ベトナム） 報告書

医療科学部 放射線技術学科 3 回生 若野 泰成

はじめに

8月15日から8月25日の10日間に渡って行われたベトナム研修に参加しました。日本では経験できない非常に濃い10日間を過ごしました。このレポートではその内容について報告いたします。

病院実習

ベトナム研修の4日間、チョーライ病院にて行われた臨床実習に参加しました。病院に入ってまず驚いた事は、日本で見ることができない程の沢山の患者さんが廊下や待合室で検査待ちをされていた事です。その中で怪我をした患者さんが多いことに気が付きました。ベトナムの街は交通量がものすごく多く、特にバイクの量が多いです。さらに交通管理も厳しくなく結果、交通事故が多くなります。それらの患者さんが2000床もある大きな病院の一つであるチョーライ病院に集結すると考えられます。CT検査では装置一台あたり約130人もの検査が1日に行われます。しかしチョーライ病院ではHISやPACSなどのシステムが普及しておらず患者の画像はフィルムでやりとりされ、フィルムの印刷やフィルム袋の作成など、日本の放射線部門では殆ど無くなった仕事内容が当たり前に行われていました。またその他の装置に関しては、約40年前のポータブル装置が未だ使用されていました。今回の臨床実習にて、非常に多い業務量をこなせるベトナム人のタフさを身をもって感じる事ができました。それと同時に、システムが普及している日本は恵まれていると思いました。



写真1 技師の方と英語で会話している様子



写真2 40年前から今も使われているポータブル装置

4日目には、核医学と放射線治療を見学させていただきました。核医学ではサイクロトロン内部を見せてもらいました。授業では内部の構造まで学びましたが、実物を見るのは初めてで一部屋のほとんどを占めるサイ

クロトロン大きさに圧倒されました。放射線治療では、照射時に呼吸抑制装置を見せてもらいました。日本にはない装置だったので大変興味を持ちました。

5日目には、チョーライ病院の放射線技師の方々との親交を深めるために、フットサルにて共に汗を流しました。その後に、招待いただいた Welcome Party で一緒に飲んだお酒は、とても美味しく、技師の方々との親交を深めることができました。ホーチミンからダナンに移動する前日には、4日間、丁寧な英語と熱心な説明をしていただいた技師の方々に感謝の気持ちを込めて、Thank you Party を開きました。みんなで歓談する中、これでお別れだと思ふとどこか寂しい気持ちになりました。

チョーライ病院での実習は、日本との環境の違いを感じると共に、日本は医療現場において医療器具やシステムが非常に充実していることを改めて実感する事ができました。ただ単に、病院内を見学するのではなく、検査の目的や重要性を考えながら見学することにより、座学では学べない臨床における知識が身につくことを言葉が通じないベトナムでの病院実習で学ぶ事ができました。この経験を日本でも活かせるようにまた座学で整理し、自分のものにできるようにしたいです。

観光

メコンリバーツアー（3日目）

3日目にメコンリバーツアーに行きました。ベトナムはスコールが多いため、合羽を事前に用意して行きました。日本にはない風景と文化に触れる事ができる良い観光でした。文化の違いを学び、現地の人、ツアーガイドさんとの英語によるコミュニケーションをとる事ができました。



写真3 メコンリバー

ホーチミン市

臨床実習が休みの日はみんなで繁華街に買い物に行きました。日本に比べて物価が安く、日本では手が届き難いものも安く買えました。ベトナムを感じさせるお土産も買う事ができました。

ホイアン（8日目）

ホイアンはランタンが綺麗でベトナムで一番行ってみたい観光地でした。日本人が作った橋など日本の風景も見られ少しホッとしました。夕方に訪れたため、まだランタンは点灯していませんでした。夕食後、点灯したランタン綺麗で感動しました。

バナヒル（10日目）

バナヒルはゴールデンドブリッジがある観光名所で、バナヒルまでのロープウェイは世界一長いロープウェイとしてギネスに認定されています。ゴールデンドブリッジの手のデザインには圧倒されました。他にもチェスのオブジェや様々なオブジェがあり一日中楽しむ事ができました。



写真4 ゴールデンドブリッジ

ミーケービーチ

ハノイに行った時に宿泊した Diamond Sea ホテルの前にはミーケービーチと呼ばれる砂浜があったので空き時間に泳ぎに行きました。雨が止んだ後だったので晴れの日より海は綺麗ではありませんでした、十分夏を

楽しむ事ができました。しかしスリが多いベトナムでは荷物を見張る必要があり、全員で楽しむことは難しく一人は荷物の見張りをしていました。

学会 (9日目)

VART というハノイで開催された学会に参加しました。学会では、各社が展示している最新装置を見学することができました。また、各国の技師の方が集まる中で日本の放射線技師の方もおられ、研究内容を英語で発表されていました。英語での発表は理解するに難しいところがありましたが、諸先輩方の姿に強い刺激をもらいました。日本人の方だけでなく、ベトナムや中国の方の発表もありましたが、英語の発音の違いに聞き取りにくい部分がありました。これからもグローバル社会になる中で役立つように、様々な国の英語を聞き取れるようになりたいと思いました。同時に、英語を話せれば、各国の放射線技師の考えを理解でき、私自身を成長させることができると気付きました。今の私の英語能力は低いですが、これから少しずつ力を付けていく良いモチベーションになりました。

普通の学生では体験できない貴重な時間を過ごす事ができ、学会というものにさらに興味を持ちました。



写真 5 学会の会場の前での集合写真

まとめ

今回のベトナムでの海外研修は私にとって得るものが多い研修になりました。病院実習で学んだ日本の病院が医療機器やシステム等で充実していることと患者さんの接遇の大切さや、観光で学んだ日本との文化の違いとコミュニケーション能力、学会で学んだ英語の必要性など、海外研修だからこそその経験ができてよかったです。特に英語は今後、就職活動でも必要になるので少しずつ勉強して力を付けていこうと思いました。

謝辞

今回、このような海外研修に参加させていただいき、引率していただいた先生方、出発までの手続きなどをサポートいただいた事務の方、この海外研修に承諾してくれた両親に感謝申し上げます。お世話になりました。チョーライ病院のスタッフの方々、観光の際に丁寧に案内して下さったツアーガイドの方にも深く感謝申し上げます。また何より、今回のベトナム研修で共に過ごした仲間感謝します。ありがとうございました。

海外研修（ベトナム） 報告書

医療科学部 放射線技術学科 4回生 奥村 保志人

8月15日～8月25日の10日間、海外研修（ベトナム）に参加いたしました。

研修内容は、チョーライ病院での臨床実習、ダナンで開催された「The 6th Vietnamese Annual Conference of Radiological Technologist (VART)」への参加、ベトナムの観光です。

【チョーライ病院での実習】

8月16日、19日～21日の4日間、チョーライ病院で臨床実習を行いました。チョーライ病院は日本の病院に比べ患者数が多く、廊下に患者さんが溢れかえっていました。一般撮影では、患者数が多いためゆっくりと撮影を行っているため業務が終わらないため、とても素早くポジショニングを行って撮影していました。実際に私もポジショニングをさせてもらいました。患者さんに対して英語でのポジショニングは難しかったですが、ジェスチャーを交えながら話すことで理解してもらうことができました。カルテなどの院内システムは完全に電子化されて



写真1 病院実習前の集合写真

いて、患者情報は手入力していたが、業務が早いのはすごいなと思いました。CT検査では、撮影やポジショニングだけでなく、穿刺から造影剤の注入まで技師が行っており、日本との違いを強く感じました。

最終日には、放射線治療と核医学検査を見学させてもらいました。放射線治療では日本の実習で見たことのないABC systemを見ることができとても良かったです。ABC systemとは能動的呼吸抑制装置のことで、ABC systemを用いることで、胸腹壁などの変位により呼吸状態を監視し、選択した位相で能動的に呼吸を抑制して照射することができます。核医学検査では、日本の実習で見学することができなかったサイクロトロンを見学することができ良かったです。

実習の最後には学校のカリキュラムや学生の一日についての発表を行いました。発表後にたくさんの質問をしていただくことができ、興味を示していただけ良かったですなと思いました。

実習期間の半ばと終わりにチョーライ病院の放射線技師の方と、パーティを行いました。そこでは言語や国籍に関係なく、談笑をして楽しむことができとても良かったです。ベトナムの放射線技師の方はフレンドリーな人ばかりで、お酒の力も借り私もフレンドリーにたくさんお話をすることができました。またパーティは乾杯の嵐で、ベトナムの方のお酒の強さには驚愕しました。パーティは終始賑やかで、あっという間に時間が過ぎました。実習後には、チョーライ病院の放射線技師の方とフットサルを行いました。

た。フットサルを全力で行うことで国籍に関係なく仲良くなることができ、スポーツの素晴らしさを改めて感じました。

ベトナムの放射線技師の方はとても優しい人ばかりだったため、すぐ仲良くなることができ、最終日にはもっとここにいたいと名残惜しい気持ちになりました。臨床実習では、日本で経験できないことたくさんありとても刺激的な毎日でした。

[ダナンで開催された学会 (VART)]

8月23日にダナンで開催された「The 6th Vietnamese Annual Conference of Radiological Technologist (VART)」に参加しました。我々だけでなく日本の放射線技師の方も参加されておられ、英語で発表されるだけでなく質問にも応えられている姿に強く憧れを感じました。さらに、発表の内容は私たちでも理解できるような基礎的な内容で、英語も聞きやすくとても良かったです。発表後には多くの人が質問をされていました。発表に対して疑問を持ち、解消するように質問を行うことで、発表に対して理解を深めようとしている姿がとてもカッコよかったです。積極的に学び、学ぶために行動することの大切さを感じました。世界初の可変型の放射線遮蔽材について発表されていた診療放射線技師の門前先生と少しお話しする機会がありました。その際に、英語は学生の頃は話せなかったとおっしゃっていて、英語の苦手な私でも、今から勉強すれば英語が話せるようになるということがわかり、必ず英語を勉強して話せるようになりたいと思いました。

学会後には Gala dinner に参加しました。様々な国の方々が参加しておられ、その中に我々以外にも日本から学生が参加されていたので交流することができました。また、ベトナムの大学生ともお話しすることができ、積極的に話しかけることの大切さを学びました。最後に、ベトナムの英雄であるホーチミン氏を讃える歌を日本人の学会参加者でステージに登り歌いました。最初は緊張していましたがとても賑やかな雰囲気の中で緊張がいつの間にかなくなっていました。また、ステージで歌や踊りなど様々な催しがありとても楽しい時間を過ごすことができました。

初めての国際学会でとても緊張していましたが学会、Gala dinner 共に想像とは違いとても良い雰囲気の中で、機会があれば参加したいと思いました。



写真2 VART での集合写真



写真3 Gala dinner でのステージの様子



写真4 メコン川での様子

【観光】

8月17日にメコン川ツアーを行いました。バスで約3時間かけてメコン川へ向かいましたが、メコン川は泥水のように汚く、ツアー中にスコールが降り環境的にはあまり良いものではなかったですが、友達と写真撮影や談笑をすることでとても楽しいツアーになりました。途中で陸に上がり現地で作っているお菓子を食べたり、とても大きな蛇を触らせてもらうことができました。昼食では海の幸がたくさん使用された料理が用意されており、とても美味しかったです。また、昼食中に歌と芝居のようなものを見ることができ、ベトナムの文化を体験することができました。メコン川ツアー

ーでは朝早くから現地の技師さんが付き添ってくださり、最後にはお土産まで頂きとても有意義な時間を過ごすことができました。

8月22日にホーチミンから飛行機でダナンに向かいました。ダナンはリゾート地ということもありホーチミンに比べて車やバイクの数が少なく、落ち着いた雰囲気のある街でした。その後、ホテルからバスで1時間程度の場所にあるホイアンという観光地に行きました。そこには、400年ほど前に日本人が建てた「日本橋」という橋がありました。そこで、ガイドの方にホイアンが貿易港として栄えていて、そこに日本人が住んでいたことを教えてもらい、昔から日本とベトナムは関係が深かったことを知ることができました。夜になると提灯が灯り、雰囲気がとても良かったです。出店がたくさんあり、出店の料理はとても美味しそうでしたが、ガイドの方に日本人が食べるとお腹を壊す可能性があるということを聞いていたので、今回は食べませんでした。機会があれば挑戦してみたいと思います。

最終日の8月25日にバナヒルズへ行きました。バナヒルズは標高1487メートルの場所にあるためケーブルカーで移動しました。そのケーブルカーは世界最長のケーブルカーで、ギネス記録に登録されているそうです。実際に乗ってみると、どれだけ丘を登れば到着するんだと思うくらいに、ケーブルカーの滞在時間は長く感じられました。しかし、ケーブルカーから見える景色は絶景でとても良かったです。バナヒルズは観光客が多く、歩くのも一苦労でした。アトラクションがありましたが長蛇の列ができていて、とても人気の観光地なんだということを実感しました。

【感想】

これまで、私は海外に行ったことがなく、興味もなかったですが今回の海外研修を行ったことで、とても海外に興味を持ちました。文化の違い、生活の違いなどを体験したことで、自分自身の考え方の幅が広がりました。さらに、ベトナムの海外研修を通して積極的に行動し、様々なことに挑戦する大切さを強く感じました。このような考え方が変わるきっかけになった海外研修に行かせてくれた親にはとても感謝しています。この経験を無駄にしないように、日本でも常に向上心を持って行動していきたいと思います。まとまりのない私たちに引率して下さった、霜村先生、小山先生、たくさんサポートして下さった松尾先生、水田先生ありがとうございました。



写真5 ホイアンの提灯

海外研修（ベトナム） 報告書

医療科学部 放射線技術学科 4 回生 西田 穰

私は昨年と今年、2回のベトナム研修に参加させていただきました。チョーライ病院での臨床実習、現地の人との交流、ダナンでの学会参加など10日間の研修でした。

【病院実習】

4年生での2か月間の臨床実習を受け終わったあとに、ベトナムでの病院実習に参加することで去年に比べて日本の医療との比較や知識を照らし合わせることができました。

一般撮影、CT、MRI などではフィルムを用いており、フィルムを印刷機に追加している姿なども見られました。フィルムを運搬する際には技師が運ぶ時もあるが、忙しく運搬する時間がないときは患者さんが運び、担当医に渡すなど効率よく撮影を行えるようにしていました。

一般撮影では患者情報の入力、ポジショニングなどをさせていただきました。日本での臨床実習では胸部撮影のポジショニングは体験させていただいたのですが、それ以外は体験しておらず焦ってしまい、スムーズにポジショニングを行うことができませんでした。しかし、骨盤や下肢などわからないポジショニングを行う際は技師さんに英語やジェスチャーを用いてコミュニケーションをとって、一つ一つ確認をしながら検査を行いました。日本の臨床実習では体験することができないことを体験することができました。技師になった際にこの経験を活かして読影をしやすい画像を提供したいです。

実習最終日に放射線部の皆さんの前で私たちの大学についてのプレゼンを行いました。オープンキャンパス、大学のカリキュラム、学生生活の説明をしました。オープンキャンパスは日本ならではのイベントで説明することが難しかったです。先生にも手伝っていただき説明を行うことができました。日本の学生が普段どのように過ごしているかなどたくさん質問していただき、日本のことを知っていただくことができました。



【学会参加】

今年の4月にも日本で行われた学会に参加したのですが、専門的で研究発表に近いという風に感じました。私たち学生にとっては難しい内容でした。しかし、今回の学会では大学で習ったことのある基礎の医療に関するものが多く、自分自身の知識と照らし合わせながら話を聞くことができました。

日本からも多くの技師さんが参加しており、あのような国際的な大舞台上で流暢な英語を用いて発表する姿はとてまかっよく憧れを覚えました。特に印象に残っているのが近畿大学病院に務めておられる門前さんの発表と質疑応答です。どの技師さんよりも堂々と発表をしており、積極的に質問を行っていました。積極的な学ぶ姿勢を私たち学生に教えてくださいました。常に疑問をもち成長しようとする意欲を持ち続けることが大切なのだと改めて痛感しました。

昼食の時間に去年の学会参加で仲良くなった、ウィンさんにお会いすることができました。ウィンさんは元フエ大学の学生で現在は放射線技師として働いており、学会運営のサポートとして今回は参加していました。私と同じ年齢なのに働いていることに驚いたのですが、ベトナムの大学は日本の大学と入学・卒業の月が違うため既に放射線技師として働いていると教えてくれました。去年まではコミュニケーションをとるためにとても時間がかかっていましたが、今年は英語を聞き取る力がついたためさらにコミュニケーションをとることができました。ウィンさんからもヒアリングが上達したと言っていただきました。自分の努力が目に見えてあらわれたことがとても嬉しかったです。しかし、英語を話す力はまだまだだと改めて実感しました。流暢に話せるようになるまでこれからも英語力を磨いていきたいと思います。

学会後の Gala Dinner に参加しました。日本だけではなく、中国やシンガポールなどからもたくさんの方が参加していました。席は会場内だけでは会場外にも設置されていました。それほど多くの方が参加されているパーティに参加できることはとても光栄なことでした。去年仲良くなって連絡をとっていたフエ大学の方ともお会いすることができ、たくさん話をすることができました。私に会いたかったと言ってくださりとても幸せでした。また、駒沢大学の学生の方々も参加されており交流を図りました。最後には日本の学生、技師さん、フエ大学の技師さん、技師会の会長さんなどたくさんの方と一緒にベトナムの英雄ホーチミンさんを讃える歌を歌いました。



【国際交流】

私は3年生で参加したベトナム研修でたくさんのつながりを作ることができました。そして、仲良くなった友達に会うために4年生でもベトナム研修に参加することを決めました。ホテルのスタッフ、チョーライ病院で働いておられる技師の方、フエ大学の技師の方たくさんの人と会うことができました。皆さん私のことを覚えてくださっていて今年もとてもよくしてもらいました。相変わらずベトナムの方はエネルギーでみなさん活き活きしており、こちら自然と笑顔があふれてきました。

また、ホーチミン市内を観光中に仲良くなった現地の方に露店や屋台に連れて行ってもらいました。タニシや孵化する前の鳥の卵など現地の方が食べておられるリアルな食文化を体験することができました。孵化前の卵を食べることには少々怖さもありましたが思い切って食べてみるととても濃厚で美味しかったです。

お別れをするときはとても寂しく、必ずまた会おうと約束をしました。またいつか会えることを願い今は勉強に集中します。



【観光】

今年はメコン川、ホイアン、バナヒルズなどのベトナムの観光名所をいくつもまわることができました。その中でも特に印象深いところがホイアンです。ホイアンは古い町並みが美しく、日本・中国・フランスなど多様な文化が見られる場所でした。建物も様々な文化が入り混じっており独特の様式でした。黄色い建物が多かったのは南フランスに寄せており、瓦などの材料は日本や中国から寄せていると現地の方に教えていただきました。

私個人としてはホイアンの観光に行く時間は夕方以降をお勧めします。ホイアンは夜になると町全体がライトアップされ幻想的な街並みを楽しむことができます。夕方に行くことでライトアップされる前と後を存分に味わうことができます。その幻想的なライトアップのひとつにランタンの光があります。ホイアンはカラフルなランタンがたくさんあり光に照らされて、いつまでも楽しむことができます。またベトナムを訪れた際には寄りたいです。

【感想】

去年は先輩が私たち後輩をまとめてリーダーシップをとってくださいましたが、今年は私がみんなをまとめるポジションにつきました。去年とは違い責任感をもつことがとても多くなりました。大人数ということもありまとめることはとても難しく、思い通りにならないことも多々ありました。しかし、自分なりにどうすれば私たちにとって良い選択になるかを常に考え、みんなよりも先に行動することを心掛けました。そのおかげもあってか、みんな自分で考え積極的に動くようになってくれました。また、どうしても私が動けないときなどは代わりに誰かが行動をしてくれてとても助かりました。先生方にもたくさん助けていただきました。この研修はまとめることの難しさを改めて痛感するものとなりました。この経験は将来技師長などまとめるポジションになったとき必ず役に立つと思います。

